

－平成29年度発掘調査報告－

埋蔵文化財調査報告書

2020年3月

福崎町教育委員会

－平成29年度発掘調査報告－

埋蔵文化財調査報告書

2020年3月

福崎町教育委員会

あ い さ つ

埋蔵文化財は、かつてその場所にどのような生活があったのかを知るとともに、今の私たちの生活を考えるうえでもかけがえのない町民共有の財産です。

福崎町では、個人住宅や店舗等の開発に伴う確認調査を中心に埋蔵文化財の調査を実施しており、これまで知られていなかった町の歴史の一端が明らかになってきています。

このたび、平成29年度の発掘調査の結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。地域の歴史を知る資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に当たり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

福崎町教育委員会
教育長 高寄十郎

例 言

1. 本書は、平成29年度に福崎町教育委員会が行った発掘調査報告書である。
2. 調査は、福崎町教育委員会が主体となり実施した。経費は、国庫補助金である。
3. 報告書は令和元年度に同じく補助金を充て福崎町教育委員会が主体となり実施した。
4. 調査体制は以下の通りである。

調査・管理事務局		整理作業・報告書担当
教 育 長	高寄 十郎	社会教育課主査 樋口 碧
社会教育課長	大塚 久典	埋蔵文化財専門員 渡辺 昇
社会教育課副課長	福永 知美（平成29年度）	整理作業員 梶 智美
社会教育課副課長	森 公宏（令和元年度）	整理作業員 福永 明子
社会教育課課長補佐	中塚 喜博（令和元年度）	
社会教育課主査	長谷川幸子（令和元年度）	
社会教育課主査	樋口 碧	

5. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福崎町設定の基準点を使用している。
6. 本書に掲載した図のうち遺跡位置図は福崎町発行の都市計画図（1/10,000）を、調査区配置図は福崎町都市計画図（1/2,500）を編集したものである。
7. 掲載する遺跡はすべて福崎町教育委員会が調査主体となり実施した。整理作業も同様である。
8. 執筆は樋口・渡辺が行い、編集は梶・福永の協力を得た。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福崎町教育委員会にて保管している。
10. 調査・整理作業において多くの方々や機関にご指導・ご協力をいただきました。感謝します。

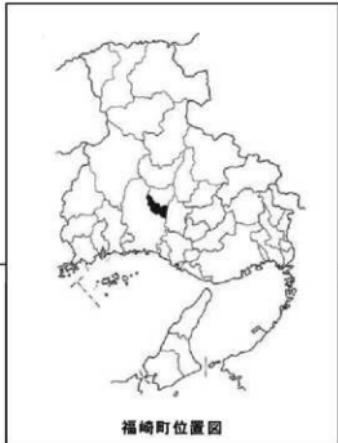
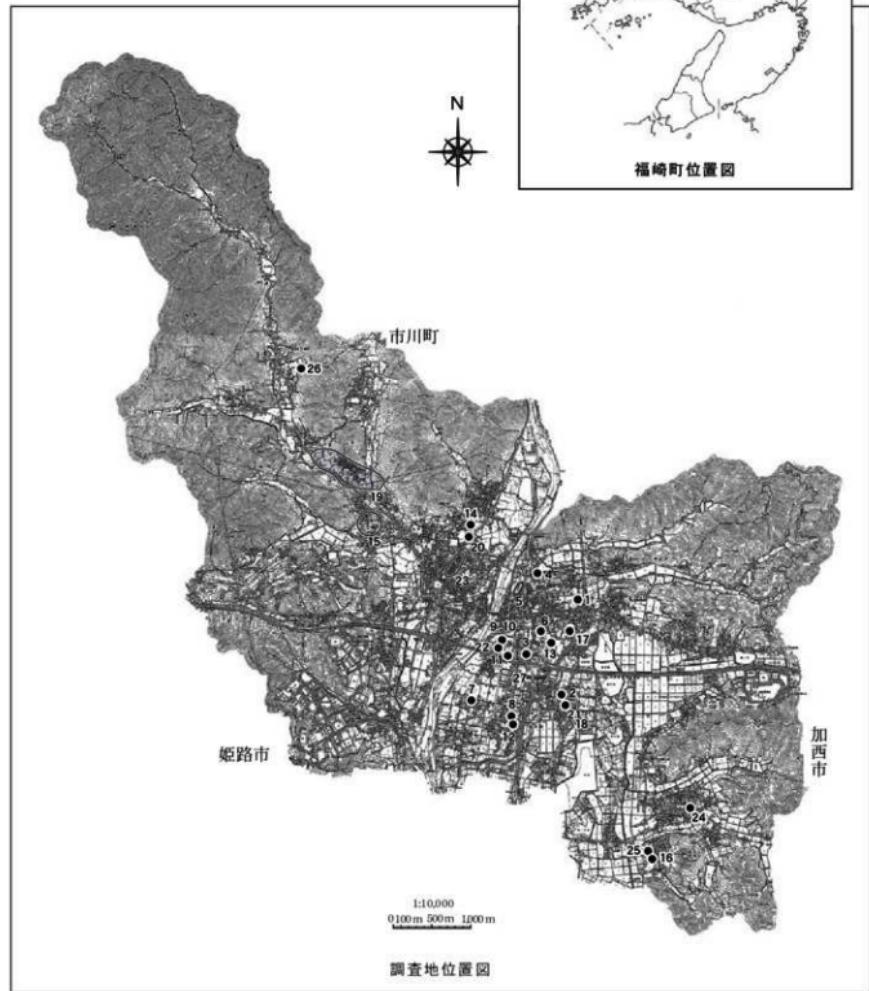
本文目次

あいさつ・例言

はじめに

平成29年度調査報告

1 . 北野散布地第4次調査	1
2 . 實性院試掘調査	4
3 . 西田原字大塚試掘調査	6
4 . 上大明寺遺跡第3次調査	9
5 . 西田原字北角試掘調査	11
6 . 西田原字前田試掘調査	16
7 . 南田原条里遺跡第35次調査	18
8 . 南田原条里遺跡第36次調査	20
9 . 南田原桶川遺跡第6次調査	22
10 . 南田原桶川遺跡第7次調査	24
11 . 南田原桶川遺跡第8次調査	25
12 . 南田原字五合堂試掘調査	26
13 . 西田原前田遺跡第3次調査	28
14 . 清水遺跡第1次調査	31
15 . 高岡・福田地区ほ場整備事業に係る試掘確認調査(南工区)	32
16 . 鍛冶屋遺跡第2次調査	33
17 . 西田原上野田遺跡第3次調査	35
18 . 南田原字山ノ東試掘調査	38
19 . 高岡・福田地区ほ場整備事業に係る試掘確認調査(北工区)	41
20 . 清水遺跡第2次調査	43
21 . 南田原字西光寺試掘調査	45
22 . 南田原桶川遺跡第9次調査	48
23 . 福崎駅周辺整備試掘調査	50
24 . 八千種字東垣内試掘調査	55
25 . 鍛冶屋遺跡第3次調査	57
26 . 田口トツタニ遺跡第1次調査	59
27 . 南田原条里遺跡第37次調査	81



平成29年度 埋蔵文化財調査一覧

	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
1	北野散布地 (第4次)	福崎町西田原字向下広岡	確 認	4月12日 (1日)	弥 生	溝・土坑	弥生土器	3か所 12m ²
A	北野散布地 (第5次)	福崎町西田原字向下広岡	本発掘	4月25日 ～ 5月11日 (5日)	弥 生	住居跡 土 坑	弥生土器	250m ²
2	實性院試掘	福崎町南田原字西光寺	試 掘	5月15日 (1日)	—	なし	なし	1か所 8 m ²
3	西田原字大塚 試掘	福崎町西田原字大塚	試 掘	6月12日 (1日)	近 代	暗 渠	なし	4か所 16m ²
4	上大明寺遺跡 (第3次)	福崎町西田原字上大明寺	確 認	6月20日 (1日)	—	なし	なし	1か所 6 m ²
5	西田原字北角 試掘	福崎町西田原字北角	試 掘	7月12日 (1日)	—	なし	須恵器 土師器	8か所 32m ²
6	西田原字前田 試掘	福崎町西田原字前田	試 掘	7月18日 (1日)	—	なし	須恵器 土師器	3か所 12m ²
7	南田原条里遺跡 (第3.5次)	福崎町南田原字歳ノ木	確 認	9月13日 (1日)	中 世	なし	土師器	1か所 4 m ²
8	南田原条里遺跡 (第3.6次)	福崎町南田原字坂之下タ	確 認	9月26日 (1日)	—	なし	なし	3か所 12m ²
9	南田原桶川遺跡 (第6次)	福崎町南田原字桶川	確 認	9月29日 (1日)	—	なし	土師器	2か所 8 m ²
10	南田原桶川遺跡 (第7次)	福崎町南田原字桶川	確 認	10月4日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4 m ²
11	南田原桶川遺跡 (第8次)	福崎町南田原字桶川	確 認	10月13日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4 m ²
12	南田原字五合堂 試掘	福崎町南田原字五合堂	試 掘	10月24日 (1日)	—	なし	土師器 須恵器	1か所 4 m ²
13	西田原前田遺跡 (第3次)	福崎町西田原字前田	確 認	10月30日 (1日)	—	なし	須恵器 陶器	4か所 16m ²
14	清水遺跡 (第1次)	福崎町山崎	確 認	10月31日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4 m ²
15	高岡・福田地区 ほ場整備 (南工区)	福崎町高岡	試 掘 確 認	10月10日 ～ 11月16日 (6日)	弥 生 ～ 中 世	土 坑 溝 ビット	土師器 須恵器 陶磁器	36か所 144 m ²
16	鍛冶屋遺跡 (第2次)	福崎町八千種字南ノ下	確 認	11月27日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4 m ²
17	西田原上野田 遺跡(第3次)	福崎町西田原字上野田	確 認	12月11日 (1日)	弥 生 ～ 中 世	土 坑 ビット	土師器 須恵器	5か所 20m ²

18	南田原字山ノ東 試掘	福崎町南田原 字山ノ東	試 挖	12月19日 (1日)	—	なし	なし	5か所 20m ²
19	高岡・福田地区 ほ場整備 (北工区)	福崎町高岡	試 挖 確 認	9月25日 ～ 12月25日 (17日)	弥 生 ～ 中 世	土 坑 溝 ビット	土師器 須恵器 陶磁器	101か所 404m ²
20	清水遺跡 (第2次)	福崎町福田	確 認	1月10日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8 m ²
21	南田原字西光寺 試掘	福崎町南田原 字西光寺	試 挖	1月17日 (1日)	中 世	溝	土師器	2か所 12m ²
22	南田原桶川遺跡 (第9次)	福崎町南田原 字桶川	確 認	2月 5日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8 m ²
23	福崎駅周辺 整備試掘	福崎町福田	試 挖	6月19日 12月12日 2月 5日 (3日)	古 代	溝	土師器 須恵器	7か所 28m ²
24	八千種字東垣内 試掘	福崎町八千種 字東垣内	試 挖	2月 7日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8 m ²
25	鍛冶屋遺跡 (第3次)	福崎町八千種 字代ノ間	確 認	2月 7日 (1日)	中 世	落ち込み ・ビット	須恵器 備前焼	1か所 4 m ²
26	田口トツタニ 遺跡 (第1次)	福崎町田口字 トツタニ	確 認	1月24日 ～30日 (6日)	中 世	中世墓 ビット	土師器 備前焼 須恵器	24m ²
27	南田原条里遺跡 (第37次)	福崎町南田原 字ナコザ	確 認	3月13・14日 (2日)	古 代	土 坑 ビット	土師器 須恵器	19か所 76m ²
B	前田遺跡 (第1次)	福崎町高岡 字前田	本発掘	2月19日 ～ 3月27 (26日)	中 世	掘立柱建物	土師器 須恵器	780m ²

No.のアルファベット遺跡は、本書には掲載していない。Aは町報告18、Bは町報告19を参照されたい。

はじめに

調査の方法

基本的に機械を使用できるところは0.1m級の重機を使用して調査を行った。2×2mの坪を基本としたが、遺跡の種類や現状の地形によってトレーナー調査を実施した地点・遺跡もある。調査対象地が狭小な場合、1m幅とした地点・遺跡もある。

掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行ったのち、埋め戻し作業も行っている。

地理的環境

福崎町は中国山地の東端で、兵庫県中央部の市川中流域に位置している。東西10.4km、南北1.2kmの45.82km²の面積である。町域中央に南北に市川が流れ、東西には山崎安富断層沿いに中国自動車道が通っている。市川中流域に狭くなっている箇所があり、その間を福崎盆地と呼称している。南側は飾磨郡と神崎郡を分ける姫路市砥堀で、北は市川町と福崎町の町境である福崎町山崎である。現在の行政域は福崎町と姫路市に分かれているが旧郡は神崎郡である。町域は市川とその支流である七種川によって形成された段丘面が見られる。山裾には麓肩面と扇状地が広がり、谷部は谷底平野と氾濫原になっている。福田高岡地区のほ場整備地区で一部扇状地がある以外は、ほとんどの調査地点は段丘面から氾濫原・谷底平野に位置している。今年度調査した遺跡・調査地点では南田原条里遺跡・南田原桶川遺跡が氾濫原・谷底平野に、他は段丘面に位置している。段丘面でも鍛冶屋遺跡や東田原上野田遺跡は中位になるが、他は低位の段丘になる。

歴史的環境

福崎町内では旧石器時代から近世の遺跡の存在が知られている。旧石器時代のナイフ形石器が南田原桶川遺跡・南田原条里遺跡・西広畠遺跡・大門遺跡から散発的に出土している。縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が南田原の西光寺で採集され、前期の土器は西大貫遺跡・加治谷大垣内遺跡で、後期の土器は西田原穴田遺跡・加治谷蔽下五反畠遺跡で出土している。遺構は落とし穴が八千種庄北狭遺跡・八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄春日遺跡の春日山西麓でまとまって確認されている。後期と思われる。晩期になると大門岡ノ下遺跡で竪穴住居が検出されており、石棒が出土している。弥生時代になると南田原条里遺跡で前期末の土器が出土し、溝が検出されている。中期前半になると大門遺跡でも土器が出土し、中期後半になると町内全域で遺跡が広がっていく。南田原長目遺跡は中心的な集落で環濠を有しており、磨製石剣も保有している。隣接する八幡遺跡(姫路市)では周溝墓が確認されている。周溝墓は玉屋遺跡・北野寺西遺跡でも調査されている。竪穴住居も上大明寺遺跡・北野散布地・加治谷蔽下五反畠遺跡・八千種庄北狭遺跡など10遺跡で確認されている。後期になると遺跡数は増加し、西治下代ノ下モ遺跡・西田原上野田遺跡のように古墳時代に継続する遺跡も多い。古墳は箱式石棺など不明なものもあるが、確実なのは後期に入ってからの相山古墳である。埴輪を有する円墳である。その後、横穴式石室を主体部とする古墳が町内に構築される。奈良時代になると特徴的な遺跡が知られている。鶴尾棺の姥ヶ懐遺跡、鶴尾を焼成した窯跡や木製仏像が出土した福井谷遺跡、製鉄遺跡の南大貫遺跡、町内唯一の寺跡である無量寺跡などである。最近調査した南田原条里遺跡は官衙的要素を強く持つ遺跡である。中世にかけても遺跡は町内に広がっている。掘立柱建物が幾つかの遺跡で調査され、田口トツタニ遺跡で墓が調査されている。南田原桶川遺跡では墨書き土器が出土している。金剛城寺(作門寺)・日光寺・神積寺が建立され、田原荘・蔭山荘・高岡荘の荘園が展開している。

1. 北野散布地（第4次）

所在地 福崎町西田原字向下広岡 968、965-1
事業名 集合住宅新築工事
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 1.2 m²
調査期間 平成29年4月12日（水）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

集合住宅新築工事に伴う包蔵地の照会があり、開発地が北野散布地内であることから平成29年2月1日付けで発掘届出が提出され、4月12日（水）に確認調査を行った。

○調査の概要

坪1

北東部に設定した坪で、第1層は耕土、第2層は黒褐シルト質極細砂、第3層は地山である褐砂礫である。第2層は旧耕土の可能性が高い。遺構は確認されていないが、地山面で弥生土器が1点出土している。地形は東から西へ低くなっている。遺構面は削平された可能性もある。

坪2

西側の水田北側に設定した坪である。層序は第1層耕土、第2層床土、第3層盛土（西側暗褐シルト質極細砂、東側褐シルト質極細砂）、第4層暗褐シルト質極細砂、第5層黒褐シルト質極細砂（角礫含む）、第6層は地山である褐砂礫である。第5層は北側にしか堆積しておらず、南側には及んでいない。第5層上面ならびに第6層上面が遺構面であり、溝1条、土坑4基を検出した。溝は幅0.55mで断面逆台形のしっかりした溝である。北東部分約1mだけ掘り下げた。深さ0.3mを測る。土坑は北壁沿い中央の1基だけ掘り下げた。幅0.6mで深さ0.1mを測る。遺物は第4層から弥生時代後半のものと思われる弥生土器が2点出土している。

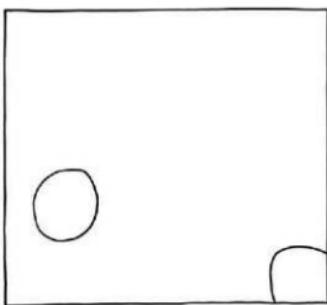
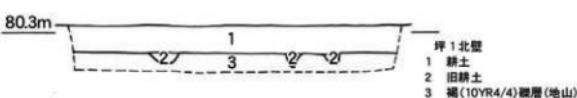
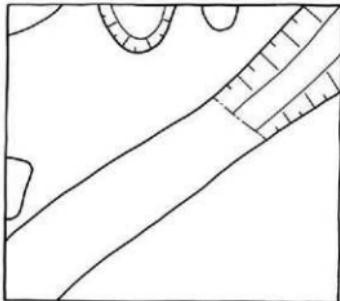
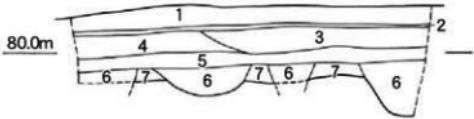
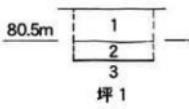
坪3

西側の水田南側に設定した坪である。第1層耕土で耕土直下が地山である褐砂礫になっている。地山面にピット状遺構を2基検出し、北壁で浅いピット状遺構を3基確認している。壁側のものは自然の可能性が高いが、平面で検出したピット状遺構はしっかりしており、掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。径0.5mの規模の柱穴である。面で検出しただけで、掘り下げていない。耕土から中世の須恵器が出土している。

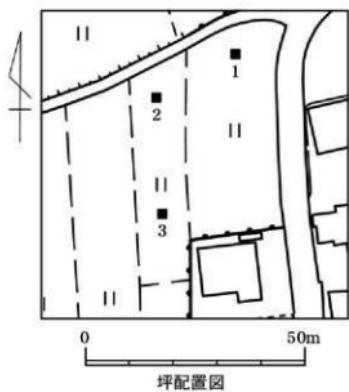
○まとめ

今回の調査では、東側の水田（坪1）では遺構は確認されなかった。西側の水田（坪2・3）では遺構を検出した。溝・ピット状遺構・土坑で弥生時代後半の集落跡と思われる。地形は南東から北西に向かって低くなっている。東側は削平された可能性も高い。

坪2・3を設定した部分の開発地域について後日、本発掘調査を実施した。



土層図



2. 寳性院試掘

所在地 福崎町南田原1381番地他
事業名 寶性院庫裡建て替え工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 5m²
調査期間 平成29年5月15日（月）

○調査に至る経過

寶性院庫裡建て替え工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所が寺院の敷地内、小字が西光寺であることから、寺院の建て替えなどや遺跡が存在する可能性があったため、平成29年4月28日付けで寶性院から予備調査依頼書が提出され、協力を得て5月15日（月）に試掘調査を行った。



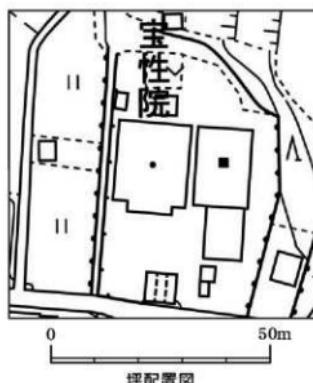
調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川によって形成された段丘面にあたる。

小字が西光寺であることから、西光寺という寺院がこの近辺にあったと推測される。

寶性院内には、家形石棺1点の他、小型の石棺が2点存在し、周辺に古墳があったことを示唆するが、西光寺野開墾により、消失してしまった可能性がある。また、周間に周知の埋蔵文化財包蔵地がほとんど確認されていないことも、それが原因と考えられる。



○調査の概要

トレンチ1

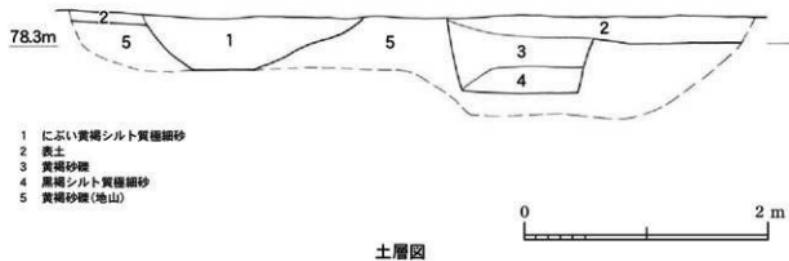
庫裡建替予定地中央に設定したトレンチで、第1層はにぶい黄褐色シルト質極細砂、第2層は表土、第3層は

黄褐色砂礫、第4層は黒褐色シルト質極細砂、第5層は地山で黄褐色砂礫である。第1層、第3層、第4層は遺構埋土で全体には広がっていない。第2層だけが堆積層であるが部分的に切られている。第1層の入った掘り込みは、表土からのものであるため、現代のものであろう。第3、4層も現代の瓦を含んでいたことから、近現代の掘り込みと考えられる。溝状の遺構で、東から西へ深くなっている。

表土直下が表土地山であることから、旧地形から大きく削平を受け、現在の地形に改変されたものと考えられる。

○まとめ

今回の調査では、古い遺構は確認されなかった。すでに削平されたか、原位置には古い寺院などの遺構はないものと考えられる。



土層図



調査地点（南西から）



機械掘削



トレンチ全景（北西から）



東壁部分

3. 西田原字大塚試掘

所在地 福崎町西田原字大塚 1419-3 の一部、
1420-1 の一部
事業名 葬祭会館建設工事
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 16 m²
調査期間 平成29年6月12日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成29年5月22日(月)に、工事主体者から、開発事業に先立つ予備調査(試掘)依頼が提出された。それを受けて平成29年6月12日(月)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面と氾濫原に位置づけられる。周知の遺跡としては、南田原条里遺跡が南方にあり、西方には中世を中心とする南田原桶川遺跡が、北東には西田原辻ノ前遺跡が、北西に奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られている。東方には西田原上野田遺跡・西田原前田遺跡があり、奈良時代～中世の遺物包含層が広く確認されている。西田原から南田原にかけての段丘面・氾濫原は現況では起伏が余り認められないが、旧河道や微高地が多く複雑に存在しているようである。洪水によって多くの遺物が広範囲に分布している。

○調査の概要

坪1

北西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は盛土、第2層はオリーブ黒シルトで整地の跡の層、第3層は灰オリーブシルト質極細砂(粗砂含む)、第4層は褐シルト質極細砂(粗砂含む)で、下層も洪水堆積層になっている。安定した遺構面は確認されず、遺物も出土していない。

坪2

東側に設定した坪である。層序は5層から成る。第1層は盛土、第2層は明黄褐疊層、第3層は灰オリーブシルト質極細砂(粗砂含む)、第4層は褐シルト質極細砂(粗砂含む)、第5層は黒褐シ

ルト質極細砂(粗砂含む)である。調査区南側には大きな擾乱坑があった。第2層も整地時の盛土である。坪1同様に地山は検出されていないが、遺構面は確認されていない。遺物も出土していない。

坪3

1・1' 層は盛土で、2層は耕土、3層は灰オリーブシルト質極細砂(粗砂含む)である。3層を切り込んで暗渠が築かれている。東西方向に延びるもので、上面の幅40cm、深さ20cmを測る。断面U字形を呈し、円碟を直接詰め込んだ素掘りの溝である。現代に近い時期と思われる。それ以外の遺構は確認されず、遺物も出土していない。



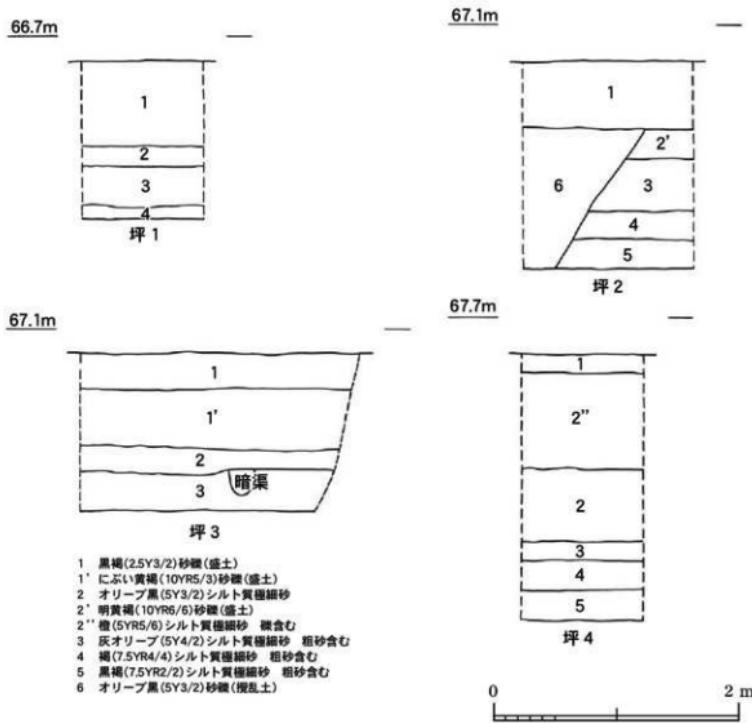
坪配置図

坪 4

調査区南東部に設定した坪で1.5 mの盛土が施されている。上層には碎石が敷かれ、2''層は砂礫を含む橙シルト質細砂、2層はオリーブ黒シルトで第1～3層が盛土である。第3層は灰オリーブシルト質極細砂（粗砂含む）、第4層は褐シルト質極細砂（粗砂含む）、第6層は黒褐シルト質極細砂（粗砂含む）である。盛土の下は自然堆積層で、安定した面を確認しておらず、遺物も出土していない。

○まとめ

今回の調査では、新しい時期の暗渠以外に遺構・遺物は確認されなかった。安定した面も認められなかった。西田原桶川遺跡が延びているとは思われず、遺跡の存在の可能性は少ない。



土層図



調査区全景(北東から)



調査区全景(南東から)



坪1西壁



坪2西壁



坪3機械掘削



坪3東壁



坪3実測風景



坪4西壁

4. 上大明寺遺跡（第3次）

所在地 福崎町西田原字上大明寺282番地2、
283番地3
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 6m²
調査期間 平成29年6月20日（火）

○調査に至る経過

建築確認申請が提出され、周知の埋蔵文化財包蔵地である上大明寺遺跡であることから第93条に則って発掘届出が平成29年6月14日（水）に提出され、平成29年6月20日（火）に確認調査を行った。

辻川山の周辺部は古くから土器などが出土している。田原遺跡や宮山遺跡とも称されていた地域である。弥生土器から備前焼まで弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡である。町指定文化財になっている妻棺墓などの出土地は現在宮山遺跡と呼んでいる。上大明寺遺跡も古宮周辺を中心広範囲に土器の分布が知られていた。平成5年度からは場整備事業に伴って確認調査が行われ、改めて遺跡の存在が明らかとなつて上大明寺遺跡とされた。平成6年度は工事施工によって損壊される部分について発掘調査が実施された。弥生時代中期後半の竪穴住居跡と掘立柱建物が調査され、ガラス玉が出土している。対象地周辺はその際に場整備が実施されているが、今回確認調査を行った地点は発掘調査が行われていない水田であることから確認調査を行つた。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、辻川山から延びる丘陵斜面と市川によって形成された段丘面にある。辻川山北山麓には西ノ池があるように谷部が存在し、辻川山北山麓延長線がほぼ遺跡の範囲に該当するものと思われる。

○調査の概要

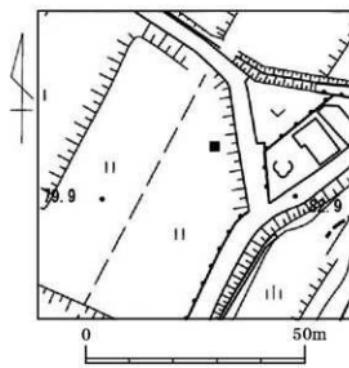
住宅予定地中央に設定した。4層から成っている。第1層は耕土、第2層は地山土客土を含む盛土である。色調は黄褐色土主体で耕土や黒褐色シルト（第3層）が混じっている。は場整備事業による盛土であろう。第3層は黒褐色シルトで、第4層は褐色シルト（粗砂を含む）で、その下が地山である黄褐色シルトである。地山面では遺構は確認されなかつた。遺物も耕土に土師器小片が認められただけである。

○まとめ

今回の調査では、遺構・遺物は確認されなかつた。は場整備事業で盛土がなされており、遺構面の削平は行われていないものと思われる。ただ包含層は存在しなかつた。

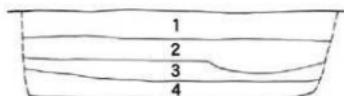


調査地点の位置(S=1/10,000)



坪配置図

81.5m



- 1 耕土
- 2 黄褐色(10YR5/3)シルト質粗砂(盛土)
- 3 黒褐色(10YR3/2)シルト質粗砂
- 4 褐(10YR4/4)シルト質粗砂(地山)

0 2 m

土層図



調査区全景(北から)



機械掘削



東壁



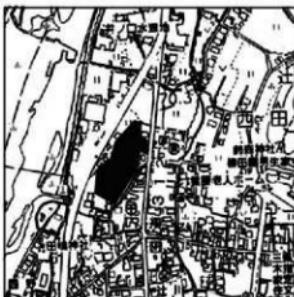
調査風景

5. 西田原字北角試掘

所在地 福崎町西田原字北角218番、
字北角田1152番他
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧・渡辺 昇
調査面積 32m²
調査期間 平成29年7月12日(水)

○調査に至る経過

平成29年7月5日(水)付けで工事主体者から、開発事業に先立つ予備調査(試掘)依頼が提出された。それを受けて平成29年7月12日(水)に試掘調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は氾濫原に位置づけられる。

周知の遺跡としては、南方には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡と中世を中心となる南田原桶川遺跡が、南東には西田原辻ノ前遺跡が知られている。さらに南側には南田原条里遺跡が広がっている。東側は段丘面で高くなってしまっており、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である上大明寺遺跡や弥生時代の下大明寺遺跡が存在する。丘陵部分には甕棺などが出土した宮山遺跡や備前焼壺が出土した辻川山がある。

○調査の概要

坪1

北西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐色砂層(疊含む)、第4層はにぶい黄褐色砂層で、第5層が地山である褐色極細砂である。遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

坪2

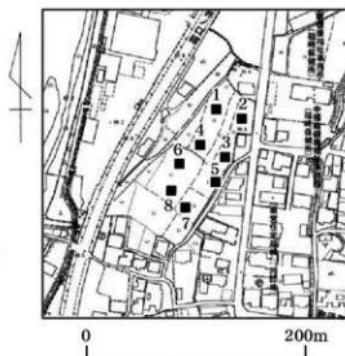
北東側に設定した坪である。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は灰黃褐色砂層(疊含む)、第4層は暗褐色シルト、第5層は地山である黄褐色極細砂である。遺構は確認されていない。遺物は床土下第3層上面から2点出土している。中世後半の須恵器楕体部の破片と土師器楕体部の破片である。

坪3

坪2の南の田に設定した坪である。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗褐色シルト(下層にマンガン層)、第4層は黒褐色シルトで、第5層が地山である黄褐色シルト(円疊含む)である。遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

坪4

坪1の南側、坪3の西側に設定した。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト(マンガン、疊含む)、第4層は褐色シルトで、第5層が地山である褐色シルト(円疊含む)である。第4層は0.8mと厚い堆積層である。床土の下は自然堆積層で、遺構は確認されていない。遺物は1点出土している。チャートなどの砂粒を多く含む胎土の悪い土器で古相を示し、弥生土



坪配置図

器かと思われる。

坪 5

坪 3 の南側に設定した坪である。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は暗褐色シルト（マンガン含む）、第 4 層はにぶい黄褐色シルト（粗砂含む）、第 5 層が地山であるにぶい黄褐色シルト（粗砂多く含む）である。床土の下は自然堆積層で、遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

坪 6

坪 4 の南側に設定した坪である。第 1 層は耕土、第 2 層は旧耕土、第 3 層は床土、第 4 層は暗褐色シルト（疊、明黄褐粗砂含む）、第 5 層は褐色シルト（粗砂多く含む）、第 6 層が地山であるにぶい黄褐色シルト（粗砂多く含む）である。床土の下は自然堆積層で、遺構は確認されておらず、遺物は床土から土師器片が 2 点出土している。

坪 7

坪 5 の南側の事業地南東に設定した坪である。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層はにぶい黄褐色シルト、第 4 層は褐色シルト（粗砂含む）、第 5 層が地山である褐色シルト（円疊多く含む）である。床土の下は自然堆積層で、遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

坪 8

坪 6 の南側に設定した坪である。第 1 層は耕土、第 2 層は床土、第 3 層は暗褐色シルト（粗砂含む）、第 4 層が地山であるにぶい黄褐色シルト（円疊多く含む）である。遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

○まとめ

今回の調査では、遺構は確認されなかった。安定した面も認められなかった。遺物は少量出土しているが、周辺遺跡からの流入（2 次堆積）と思われ、遺跡の存在の可能性は少ない。



調査区全景（南から）

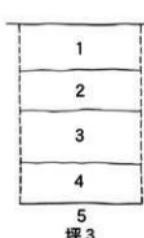
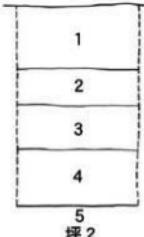
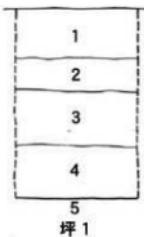


調査区全景（北から）

69.3m

69.5m

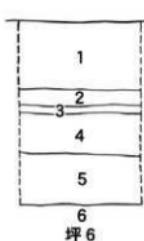
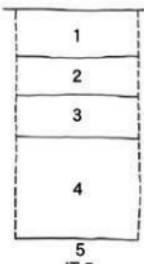
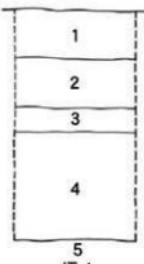
69.8m



69.3m

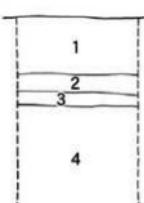
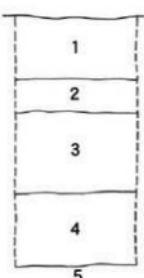
69.8m

70.7m



70.7m

70.6m



坪3

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 黒褐色(10YR4/4)シルト 下層にマンガン層
- 4 黒褐色(10YR2/3)シルト
- 5 黄褐色(10YR5/6)シルト 円礫含む(地山)

坪4

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト マンガン含む
- 4 棕褐色(10YR4/4)シルト
- 5 棕褐色(10YR4/6)シルト 円礫含む(地山)

坪5

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 黒褐色(10YR3/3)シルト マンガン含む
- 4 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 粗砂含む
- 5 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粗砂多く含む(地山)

坪6

- 1 耕土
- 2 旧耕土
- 3 床土
- 4 黑褐色(10YR3/4)シルト 糜、明黄褐色粗砂含む
- 5 黑褐色(10YR4/4)シルト 粗砂多く含む
- 6 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粗砂多く含む(地山)

坪7

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
- 4 棕褐色(10YR4/4)シルト
- 5 棕褐色(10YR4/4)シルト 円礫多く含む(地山)

坪8

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 黑褐色(10YR3/3)シルト 粗砂含む
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 円礫多く含む(地山)

坪1

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 黒褐色(10YR4/4)砂層 穂含む
- 4 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂層
- 5 黄褐色(10YR4/4)極細砂(地山)

坪2

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 灰黃褐色(10YR4/2)砂層 穂含む
- 4 琉褐色(10YR3/3)シルト
- 5 黄褐色(10YR5/6)極細砂(地山)

土層図

0

2 m



坪1 機械掘削



坪1 西壁



坪2 西壁



坪2 埋戻し



坪3 西壁



坪4 調査風景



坪4 西壁



坪4 調査風景



坪4 西壁



坪5 西壁



坪5 西壁調査風景



坪6 南壁



坪7 西壁



坪7 埋戻し



坪8 機械掘削



坪8 南壁

6. 西田原字前田試掘

所在地 福崎町西田原字前田1694番2他
事業名 宅地開発事業
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 1.2m²
調査期間 平成29年7月18日(火)

○調査に至る経過

平成29年7月4日(火)付けで開発事業者から開発事業に先立つ予備調査(試掘)依頼が提出された。それを受け平成29年7月18日(火)に試掘調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分は氾濫原に位置する。

周知の遺跡としては、中世を中心とした西田原辻ノ前遺跡が南西方向にあり、さらに離れた南西の位置にやはり中世を中心とする南田原桶川遺跡が存在する。北西には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られている。東には西田原上野田遺跡、南東には西田原前田遺跡があり、ともに奈良時代～中世の遺物包含層が広く確認されている。北側の高位段丘面に広がる遺跡(宮山遺跡・北野散布地など)は弥生時代から生活を営んでいる。西田原から南田原にかけての段丘面・氾濫原は現況では起伏が余り認められないが、旧河道や微高地が複雑に存在しているようである。また、洪水によって多くの遺物が広範囲に分布している。

○調査の概要

坪1

北西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は耕作土、第2層は床土(耕土混じる)、第3層は黒褐シルト質極細砂(粗砂細礫含む)、第4層は黄褐シルト質極細砂で、その下が地山である暗褐シルト質細砂(礫多く含む)である。遺構は確認されていない。須恵器・土師器が出土している。古墳から中世末と時期幅がある。

坪2

北東側に設定した坪である。層序は坪1と同じである。第3層は色調が淡くなってしまっており、暗褐色となっている。遺構は確認されていないが、土師器が1点出土している。古墳時代前後の甕と思われる。

坪3

南東側に設定した坪で、4層から成っている。層序は坪2と同じである。第3層は暗褐色を呈し層は3.0cmと厚くなっている。遺構は検出されず、遺物は出土していない。

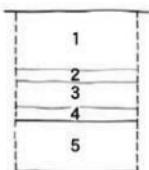


○まとめ

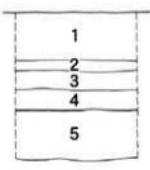
今回の調査では、遺構は確認されず、安定した面も認められなかった。遺物は少量出土しているが、時期幅がある。

67.8m

67.8m

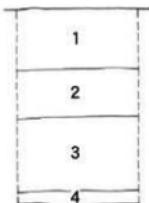


坪 1



坪 2

67.5m



坪 3

坪1

- 1 耕土
- 2 床土 耕土混じる
- 3 黒褐(10YR2/2)シルト質極細砂 粗砂細砂含む
- 4 黄褐(10YR5/6)シルト質極細砂
- 5 喀褐(10YR3/3)シルト 糙多く含む(地山)

坪2・坪3

- 1 耕土
- 2 床土
- 3 喀褐(10YR3/3)シルト質極細砂 粗砂細砂含む
- 4 黄褐(10YR5/6)シルト質極細砂
- 5 喀褐(10YR3/3)シルト 糙多く含む(地山)

0

2 m

土層図



調査区全景（北東から）



坪 1 北壁



坪 2 東壁



坪 3 西壁

7. 南田原条里遺跡（第35次）

所在地 福崎町南田原字歳ノ木2337番
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 橋口 碧・渡辺 昇
調査面積 4m²
調査期間 平成29年9月13日（水）

○調査に至る経過

平成29年8月4日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年9月13日（水）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置づけられる。南田原条里遺跡では今まで34回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器・石包丁等が出土している。

○調査区の概要

現況では住宅解体後の更地になっていた。周辺も宅地で早くから集落があった地域と思われる。住宅建設予定地ほぼ中央に坪を設定した。第1層は盛土、第2層は黒シルト質極細砂、第3層は礫層、第4層は褐極細砂、第5層は黄褐色シルト質極細砂で地山である。第2層から土師器が1片出土している。第2層は旧家屋時の地表と思われる所以、現代の層になる。遺構は検出されなかった。第3層・第4層は洪水堆積物と思われる。第3層は人頭大から拳大の円礫で灰黃褐細砂が混じる。第4層はマンガンを含んでいる。

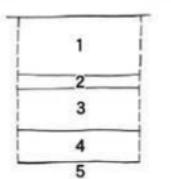


坪配置図

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。遺物も第2層から土師器が1点出土しているだけである。

62.1m



- 1 盛土
- 2 黒(10YR2/1)シルト質極細砂
- 3 硬層 灰青褐色細砂含む
- 4 褐(10YR4/4)極細砂 マンガン含む
- 5 黄褐(10YR5/6)シルト質極細砂(地山)



土層図



調査前（西から）



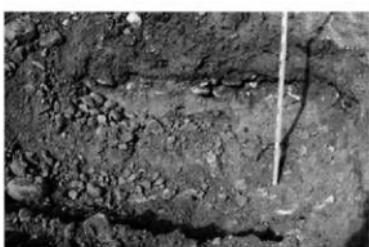
調査前（南から）



機械掘削



人力掘削



断面



西壁

8. 南田原条里遺跡（第36次）

所在地 福崎町南田原字坂之下タ2181番1
事業名 店舗新築工事
調査担当 樋口 碧
調査面積 12m²
調査期間 平成29年9月26日（火）

○調査に至る経過

平成29年7月3日に工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における店舗建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年9月26日（火）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置づけられる。

南田原条里遺跡では今まで35回の調査が行われ、弥生時代から古代の遺構が確認されている。

○調査の概要

現況では店舗解体後の更地になっていた。周辺も宅地で早くから集落があった地域と思われる。店舗建設予定地3か所に坪を設定した。

坪1

第1層は碎石、第2層は造成土、第3層は暗灰黄シルト、4層は黒褐シルトである。3層以下は市川の氾濫による堆積層であると考えられる。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪2

第1層は碎石、第2層は造成土、第5層は暗褐細砂、第6層は赤褐細砂（礫多く含む）、第7層は暗灰黄極細砂、8層は暗褐細砂、9層は暗褐シルト、10層はにぶい黄褐シルト、4層は黒褐シルトである。4

層以下は市川の氾濫による堆積層で、8層より上の層については、人為的に移動されたものであると考えられる。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪3

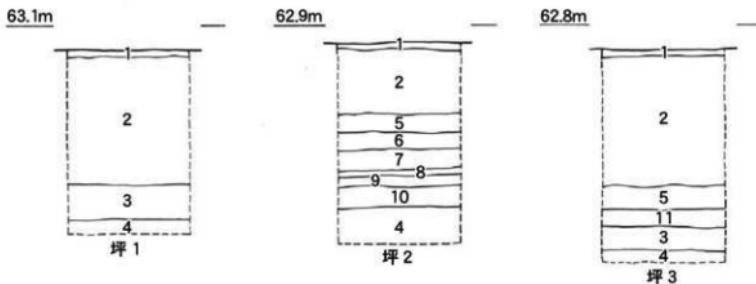
1層は碎石、2層は造成土、5層は暗褐細砂、11層は黒褐シルト、3層は暗灰黄シルト、4層は黒褐シルトである。11層以下は市川の氾濫による堆積層であると考えられる。遺構・遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

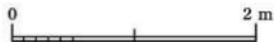
今回の調査地点では、洪水堆積層の直上に造成土が確認されたことから、旧建物建築時に耕作土等を取り除いた後に造成したと考えられる。遺構・遺物ともに確認されなかったが、周辺で現況が水田である箇所は遺構が残っている可能性があるため、引き続き注意して調査を実施していきたい。



坪配置図



- 1 砕石
2 造成土
3 離灰黄シルト
4 黒褐シルト
5 黒褐細砂
6 赤褐細砂(礫多く含む)
7 離灰黄褐細砂
8 黑褐細砂
9 黑褐シルト
10 にふい黄褐シルト
11 黑褐シルト



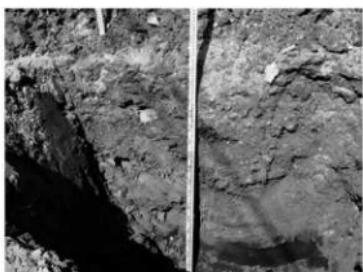
土層図



調査区全景



坪 1 (南から)



坪 2 (南から)



坪 3 (南から)

9. 南田原桶川遺跡（第6次）

所在地 福崎町南田原字桶川3153番1の一部
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧
調査面積 8m²
調査期間 平成29年9月29日（金）

○調査に至る経過

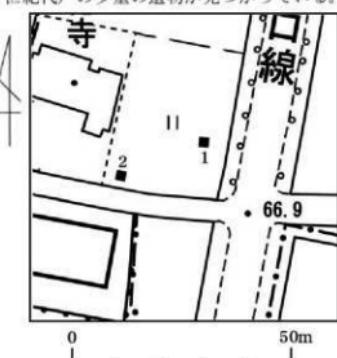
平成29年9月22日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年9月29日（金）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

南田原桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、近くに安徳寺や桶川の泉が存在する。今回の調査地点より北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状遺構やピットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12～15世紀代）の少量の遺物が見つかっている。また、東に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかっており、南に位置する平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかってはいないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。近くには南田原条里遺跡があり、南田原桶川遺跡よりやや南側に位置する。南田原条里遺跡の範囲の北側で、平成25年度の第22、23次調査では奈良時代の溝状遺構を検出しておらず、さらに北側へ遺構が展開していく可能性を示唆しているものであった。



○調査の概要

坪1

耕土、旧耕土、床土、洪水堆積層から成っている。

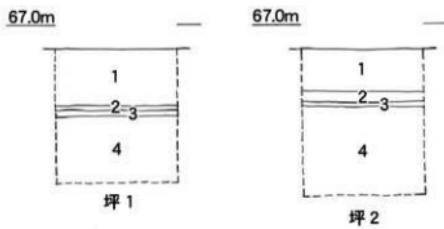
洪水堆積層から土師器片が出土したが、2次堆積のものと考えられる。遺構は確認されなかった。

坪2

耕土、旧耕土、床土、洪水堆積層から成っている。洪水堆積層から土師器片が出土したが、2次堆積のものと考えられる。遺構は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査地点の西側には安徳寺、県道を挟んだ東側では、中世の遺構が確認されていたため、遺構の広がりが確認できると期待できた。周辺の調査の結果、当地点の周辺は自然河道及びその氾濫原と微高地と考えられる場所が確認されており、今回の調査の結果、当地点の床土の直下は洪水堆積層であったため、遺跡外と考えられる。



- 1 暗オリーブ褐(2.5YR 3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 2 灰灰黄(2.5Y 5/2)シルト質粗砂(旧耕土)
- 3 褐(7.5YR 4/6)細粗砂(底土)
- 4 にぶい黄褐(10YR 4/3)円礫多く含む(洪水堆積層)



土層図



調査前（東から）



機械掘削



坪 1（南から）



坪 2（南から）

10. 南田原桶川遺跡（第7次）

所在地 福崎町南田原字桶川

3150-4、3149-2

事業名 集合住宅新築工事

調査担当 樋口 碧

調査面積 4m²

調査期間 平成29年10月4日（水）

○調査に至る経過

平成29年8月1日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における集合住宅建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年10月4日（水）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

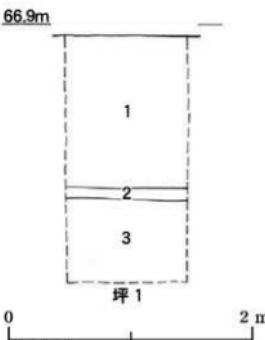
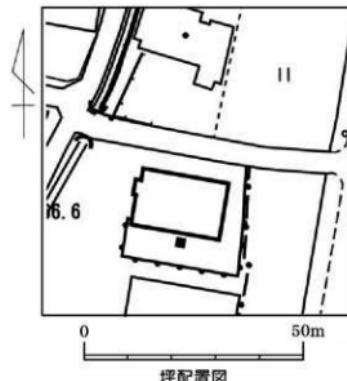
南田原桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、近くに安徳寺や桶川の泉が存在する。今までの調査では、包含層と溝状遺構やピットが見つかっており、旧石器から中世の少量の遺物が見つかっている。近くには南田原条里遺跡があり、南田原桶川遺跡よりやや南側に位置する。南田原条里遺跡の範囲の北側で、平成25年度の第22、23次調査では奈良時代の溝状遺構を検出しており、さらに北側へ遺構が展開していく可能性を示唆しているものであった。

○調査の概要

造成土、耕土、洪水堆積層から成っている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査地点の西側には安徳寺、県道を挟んだ北東側では、中世の遺構が確認されていたため、遺構の広がりが確認できると期待できた。周辺の調査の結果、当地点の周辺は自然河道及びその氾濫原と微高地と考えられる場所が確認されており、今回の調査の結果、当地点の耕土の直下は洪水堆積層であったため、遺跡外と考えられる。



土層図

- 1 盛土
- 2 耕土
- 3 洪水(10YR 3/4)シルト 20cm大円盤含む

1.1. 南田原桶川遺跡（第8次）

所在地 福崎町南田原字桶川3136番6
事業名 店舗新築工事
調査担当 橋口 碧
調査面積 4m²
調査期間 平成29年10月13日（金）

○調査に至る経過

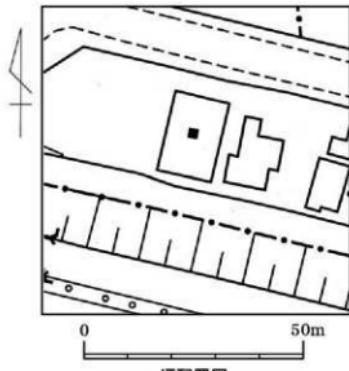
平成29年7月11日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における店舗建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年10月13日（金）に確認調査を行った。



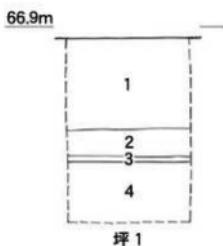
調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

南田原桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、南側には南田原条里遺跡が存在する。今回の調査地点より北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状遺構やピットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12～15世纪代）の少量の遺物が見つかっている。また、県道を挟んで北側の平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかっており、平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかってはいないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。



坪配置図



坪1

- 1 盛土
2 耕土
3 床土
4 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト 円礫多く含む(洪水堆積層)



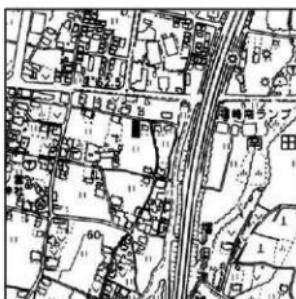
土層図

12. 南田原字五合堂試掘

所在地 福崎町南田原字五合堂 791番1
事業名 個人住宅建築工事
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 4m²
調査期間 平成29年10月24日(火)

○調査に至る経過

平成29年10月4日に、工事主体者から、個人住宅建築工事に先立つ予備調査（試掘）依頼が提出された。それを受けて平成29年10月24日（火）に試掘調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

調査対象地は市川東岸に位置し、地形区分上は氾濫原に位置づけられる。周知の遺跡としては、南田原条里遺跡が北側に広がっており、その隣接地にある。さらに北側には中世を中心とする南田原桶川遺跡が存在する。西田原から南田原にかけての段丘面・氾濫原は現況では起伏が余り認められない水田になっているが、旧河道や微高地が多く複雑に存在しているようである。洪水によって多くの遺物が広範囲に分布している。

○調査の概要

建物建設予定地北東側に設定した坪で、第1層は耕土、第2層はにぶい黄シルトで耕作時の床土、第3層は灰黄シルト質極細砂（小礫含む）、第4層は黒褐シルト（植物遺体多く含む）で、第5層は黄灰シルト、第6層は第5層より色調が淡い黄灰シルトである。第4層は草木の根や幹などの植物遺体を多く含んでいる層で一般的にピート層と呼ばれている。池沼など水が滞留している部分に主に葦などのイネ科植物が繁茂していたところである。

前日までの雨の影響で湿地化していたので安全面を考慮して全体的に下げる、第5層以下は東の一部のみ掘り下げた。第6層を確認した段階で地形的に低い部分で安定した面が存在しないと判断したので地山面まで下げていない。下層はすべて湿地部分の堆積で、遺構は確認されなかった。遺物は第3層から中世の土師器・須恵器が出土している。

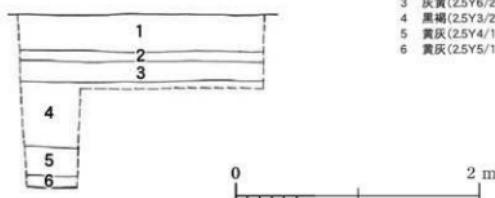


坪配置図

○まとめ

今回の調査では、中世の遺物が少量出土したが、遺構は確認されなかった。安定した面も認められず、ピート層が確認されたことから池沼などの草木が繁茂した地域であったことが確認された。

61.5m



土層図



調査区全景(北から)



機械掘削



南壁



人力掘削



調査風景



埋戻し状況

13. 西田原前田遺跡（第3次）

所在地 福崎町西田原字前田1710番、1711番
事業名 太陽光発電所建設工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 1.6 m²
調査期間 平成29年10月30日（月）

○調査に至る経過

平成29年10月2日に、工事主体者から、周知の埋蔵文化財包蔵地内における太陽光発電所建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年10月30日（月）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置づけられる。

西田原前田遺跡は段丘面上に広がる遺跡で古代から中世にかけての遺物が採集されている。第1次、第2次調査では、遺物は出土するものの明瞭な構造は確認されていない。東側の一段高い段丘上に広がる西田原上野田遺跡も同時期の遺跡でピットが確認されている。また、南西方向に位置する南田原条里遺跡では弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代から中世の遺物が出土している。

○調査の概要

水田は2筆あり、各々2か所の坪を設けて確認調査を行った。西側の1段低い1710番の田に坪1・2を設定した。東側の1711番の田に坪3・4を設定した。

坪1

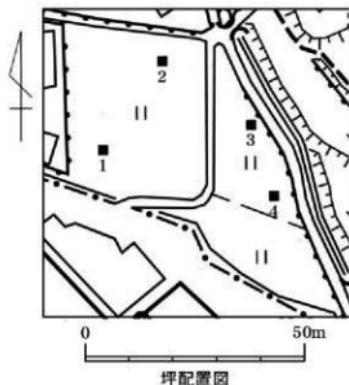
第1層は耕土、第2層はオリーブ黄褐色細砂、第3層は灰オリーブシルト、第4層は灰オリーブシルト質極細砂、第5層は暗灰黄シルト質極細砂、第6層は黒シルト質極細砂（マンガン含む）、第7層は灰細砂である。耕土から陶器が1片出土している。遺構は確認されなかった。第3層以下は洪水堆積物と思われ、安定した面も確認できなかった。

坪2

色調は部分的に異なるが基本的に第6層までは坪1と同じである。第3・4層は坪2の方が空気によく触れていたことから色調が淡く灰が強くなっている。第7層は黒シルト質極細砂で有機質を含み沼などの滞水状態の堆積を示している。第8層はにぶい黄砂礫層である。周辺の堆積から見て洪水堆積で、旧河道の可能性がある。

坪3

第1層は耕土、第2層は黄褐色細砂、第3層は黄灰中砂、第4層は灰黄褐色細砂、第5層は黒褐色細砂、第6層は暗灰黄中砂、第7層は黒褐色細砂、第8層は黒褐色細砂、第9層は黄褐色細砂である。遺構は確認されておらず、遺物も第4層から須恵器が1片出土しただけである。



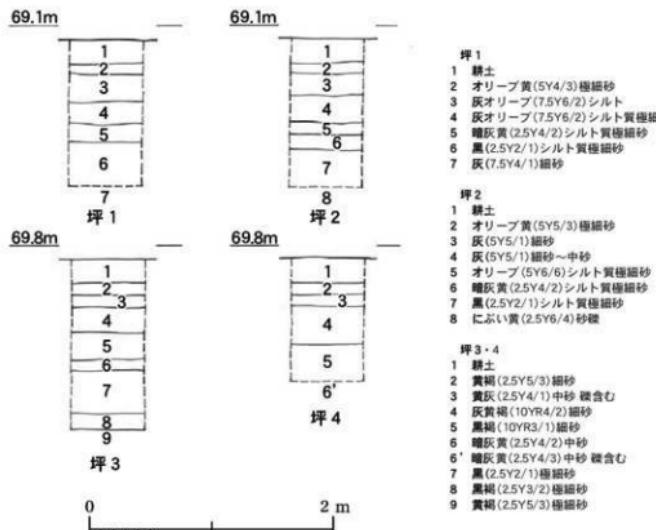
坪配置図

坪 4

堆積は坪 3 とほぼ同じである。第 6 層に礫が多く含まれる。坪 3 と同じで湧水が多いことから第 6 層で止めている。遺構は確認されず、遺物は第 2 層から須恵器が 1 片出土している。

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかつた。遺物も須恵器が 2 点、陶器が 1 点出土しているだけである。



土層図



調査区全景(西から)



調査区全景(東から)



坪1 機械掘削



坪1 北壁



坪2 周辺(南から)



坪2 北壁



坪3 調査風景



坪3 北壁



坪4 人力掘削



坪4 北壁

14. 清水遺跡（第1次）

所在地 福崎町山崎623番、624番
事業名 宅地造成工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4m²
調査期間 平成29年10月31日（火）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成29年10月11日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における宅地造成工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成29年10月31日（火）に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

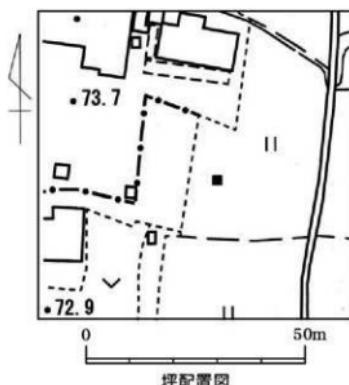
清水遺跡は段丘上に位置し、東に大塚古墳、南東に福田東田黒遺跡が存在する。
古墳時代の遺物が採集されたことから周知の埋蔵文化財包蔵地として知られていたが、これまで確認調査は実施されておらず、遺構の性格等は分かっていない。

○調査区の概要

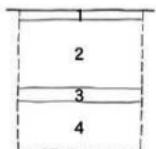
駐車場予定地中央に坪を1か所設けた。
耕土、盛土から成っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回、当遺跡において初めて確認調査を実施するにあたり、遺構の発見が期待されたが、遺物・遺構ともに確認されなかった。耕土直下が現代のコンクリート片を含む盛土であったため、遺構が破壊されている可能性も考えられた。



72.9m



- 1 褐オリーブ褐(2.5YR 3/4)シルト質 細礫含む(耕土)
- 2 1の土に黄褐色(10YR 5/8)シルト質粗砂 ブロック混ざる(盛土)
- 3 にぶい黄褐色(10YR 6/6)シルト質 細礫含む(盛土)
- 4 黄褐色(10YR 4/2)シルト質 細礫含む(盛土)



土層図



北壁

15. 高岡・福田地区ほ場整備（南工区）

所在地 福崎町高岡

事業名 高岡・福田地区ほ場整備事業

調査担当 樋口 碧・渡辺 昇

調査面積 144m²

調査期間 平成29年10月10日（火）～

平成29年11月16日（木）

（実働6日間）

○調査に至る経過

福崎町では高岡福田地区においてほ場整備事業を計画している。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である觀音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡・林谷遺跡・桜遺跡・狐塚

遺跡が存在する。事業用地内の分布調査を受けて試掘調査を実施することとなった。平成28年度から調査を開始し、平成28年度は南工区の試掘確認調査を終了する予定であったが、すべてを調査することが出来ず、次年度に持ち越した。今年度は北工区の試掘確認調査時期に合わせて南工区の残りの試掘調査を実施した。耕作物の都合などで2期（前期は主に麦作部分）に分けて調査を実施した。平成29年10月10日（火）から順次試掘調査を行った。調査坪№は昨年からの南工区通し№としており、№183から坪番号を付けている。調査内容などは別途福崎町文化財調査報告19を予定しているので、参照いただきたい。

○まとめ

今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地以外を対象として試掘調査を実施した。昨年度、南工区の試掘確認調査の続きである。前田遺跡北側の字ヤブノハナと長野区諿訪神社周辺の試掘調査を実施し、ともに遺跡が確認された。

字ヤブノハナは前田遺跡の北側に位置している。調査区から北側にも丘陵が延びており、丘陵に挟まれた水田である。遺構は落ち込み・土坑・ピットが検出され、土師器・須恵器が出土していることから、神谷ヤブノハナ遺跡とする。時期は古代の集落跡の可能性が高く、谷奥部に存在する矢口遺跡との関係がうかがわれるとともに、神谷古墳築造以降律令期にかけて、当地周辺が福崎町の有力地の1つになったと考えられる。

長野区諿訪神社周辺（字宮ノ西・字宮ノ東）では広い範囲で遺構が確認された。落ち込み・土坑・溝・ピットを確認しており、古墳時代から中世にかけての集落跡と思われ、長野諿訪神社周辺遺跡とする。



調査地点の位置



諿訪神社周辺(南西から)

16. 鍛冶屋遺跡(第2次)

所在地 福崎町八千種字南ノ下3827番1の一部
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 4m²
調査期間 平成29年11月27日(月)

○調査に至る経過

平成29年9月30日付けで工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。それを受け平成29年11月27日(月)に確認調査を行った。



○当該地周辺の地理的・歴史的環境

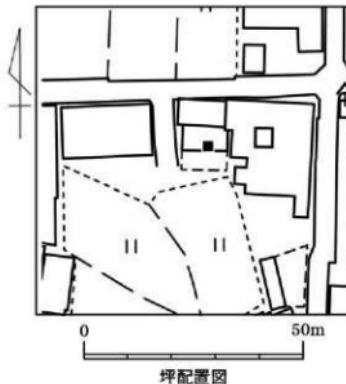
遺跡は市川の支流である平田川東岸で、地形区分上は高位段丘面に位置づけられる。鍛冶屋遺跡は段丘面に広がる遺跡で古代から中世にかけての遺物が採集されている。北側の段丘上には八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄北塙遺跡が存在している。平成9年度には場整備事業に伴って発掘調査が実施されている。西側の段丘面上には昭和52年と早い段階に調査された玉屋遺跡があり、弥生時代の方形周溝墓が調査されている。

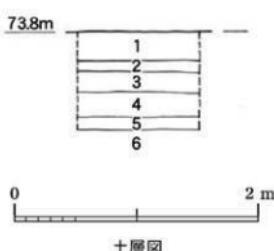
○調査の概要

建設予定地南側に坪を設定した。
第1層は盛土、第2層は碎石、第3層は耕土、第4層は淡黄褐色細砂、第5層は褐灰色細砂(マンガン含む)、第6層は地山である明黄褐色シルト質細砂である。遺構、遺物は確認されなかった。第1層、第2層は解体撤去後に置かれた盛土・碎石である。

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。遺物も確認されなかった。





調査前（北東から）



機械掘削



南壁



埋戻し

17. 西田原上野田遺跡（第3次）

所在地 福崎町西田原字上野田1828番地
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 20m²
調査期間 平成29年12月11日（月）

○調査に至る経過

平成29年11月13日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における宅地造成工事にかかる93条の発掘届出が提出された。平成29年12月11日（月）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置づけられる。

周知の遺跡としては、南西に西田原前田遺跡があり、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。西には西田原辻ノ前遺跡が存在している。

今回の調査地点より西に位置する平成5年度の第1次調査では、ピット状遺構が確認され、中世の須恵器が出土している。また、北西に位置する平成28年度の第2次調査では、中世の遺物を含む包含層が確認されている。

○調査区の概要

坪1

東側の水田北側に設定した坪で、耕土、床土、黒褐色土層、灰オリーブ色土層、地山から成っている。黒褐色土層から土師器片が見つかった。遺構は確認されなかった。

坪2

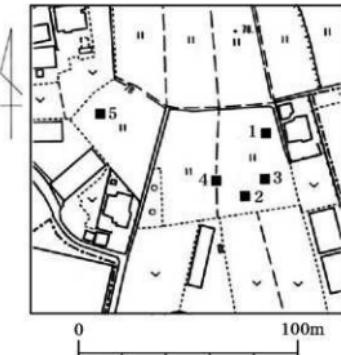
東側の水田南側に設定した坪で、耕土、床土、暗褐色土層、黒色土層、暗オリーブ褐色土層、地山から成っている。黒色土層から弥生土器片、土師器片が見つかった。明確な遺構ではないが、落ち込みを検出した。

坪3

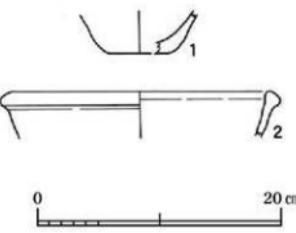
坪2で落ち込みを検出したことから、遺構の存在を確認するためその北東側に設定した。耕土、床土、黒色土層、暗褐色土層、黒褐色土層、地山から成っている。暗褐色土層から土師器片が見つかった。遺構は確認されなかった。

坪4

中央の畑地中央部に設定した。耕土、床土、黄褐色土層、地山から成っている。耕土から須恵器片が見つかった。地山面からピット状遺構が1基確認された。



坪配置図



土器実測図

坪5

西側の畠地西側に設定した坪で、耕土、床土、黒色土層、地山から成っている。ピット状遺構が4基確認された。遺物は、黒色土層から土師器片が出土している。

○まとめ

今回の調査で、申請地の全体で遺物包含層、中央、西側の筆でピット状遺構を確認した。平成5年の第1次調査の結果を踏まえると、遺構本体は申請地の北側にあると思われる。

また、当遺跡は奈良時代と中世の遺跡として知られていたが、弥生土器片が見つかったことから、新たに弥生時代の遺構が存在する可能性が高い。

土器觀察表

番号	種別	器種	坪No.	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	弥生土器	甕	2		残3.5	(5.0)	タタキのちナデ	工具によるナデ	包含層
2	土師器	鍋	5	(21.0)	残3.8		ロクロナデ	ロクロナデ	1層



調査区全景（東から）



坪1（南から）



坪2（南から）



坪3（南から）



坪4（南から）



坪5（南から）

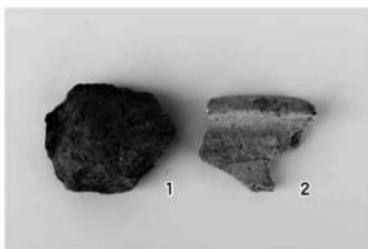
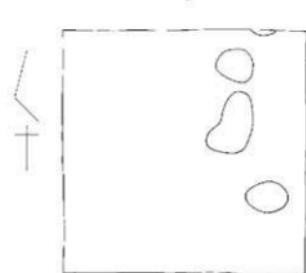
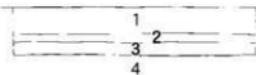
78.2m



78.2m

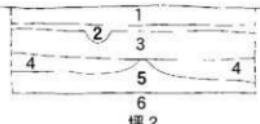


78.1m

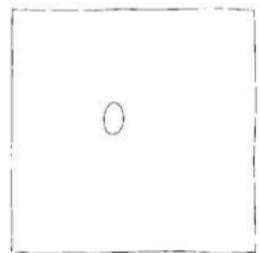
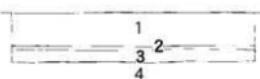


出土遺物

78.3m



78.4m



坪1

- 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(床土)
- 暗褐(10YR3/2)シルト質粗砂
- 灰オリーブ(5Y6/2) シルト質細砂含む
- 明黄褐(2.5Y6/8)シルト質細砂の土を含む(地山)

坪2

- 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(床土)
- 暗褐(10YR3/2)シルト質粗砂の土を含む
- 黒(2.5Y2/1)シルト質粗砂
- 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質細砂
- 明黄褐(2.5Y6/8)シルト質細砂(地山)

坪3

- 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(床土)
- 黒(2.5Y2/1)シルト質粗砂
- 暗褐(10YR3/3)シルト質細砂
- 黒褐(10YR3/2)シルト質細砂
- 暗灰黄(2.5Y5/2)シルト質細砂(地山)

坪4

- 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 暗褐(10YR3/2)シルト質粗砂(床土)
- 黄褐(2.5Y5/4)シルト質細砂
- 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質細砂(地山)

坪5

- 暗褐(10YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(床土)
- 黒(2.5Y2/1)シルト質粗砂
- 暗褐(10YR3/3)シルト質細砂(地山)

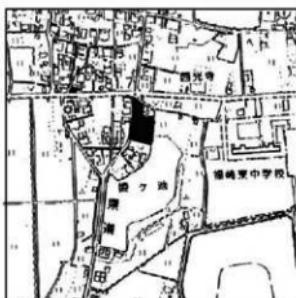
土層図

18. 南田原字山ノ東試掘

所在地 福崎町南田原字山ノ東1190-21他
事業名 太陽光発電設備設置工事
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 20m²
調査期間 平成29年12月19日(火)

○調査に至る経過

平成29年11月16日に、工事主体者から、開発事業に先立つ予備調査(試掘)依頼が提出された。それを受けた平成29年12月19日(火)に試掘調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査の方法

調査対象地区の現状は、更地となっている。開発区域に2×2mの坪を5か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行ったのち、埋め戻し作業も実施した。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は段丘面に位置づけられる。

周知の遺跡としては、南西に弥生時代の散布地である南田原中野田遺跡、北西に縄文時代の散布地である西光寺遺跡が知られている。

申請地周辺は、石棺の存在は知られているものの、西光寺野の開発に際して古墳が取り壊されたと考えられている地域で、遺跡の存在もほとんど知られていない。

○調査の概要

坪1

開発申請地北側に設定した坪で、碎石、浅黄色土層、暗褐色土層、褐色土層、地山からなっている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

坪2

坪1の南側に設定した坪で、碎石、浅黄色土層、暗灰黄色土層、地山からなっている。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

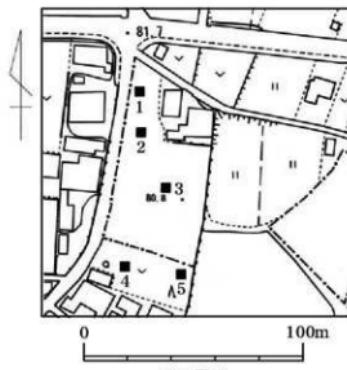
坪3

坪2の南東側に設定した坪で、碎石、浅黄色土層、暗灰黄色土層、地山からなっている。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

坪4

開発申請地南西側に設定した坪で、碎石、浅黄色土層、褐色土層、暗灰黄色土層、地山からなっている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

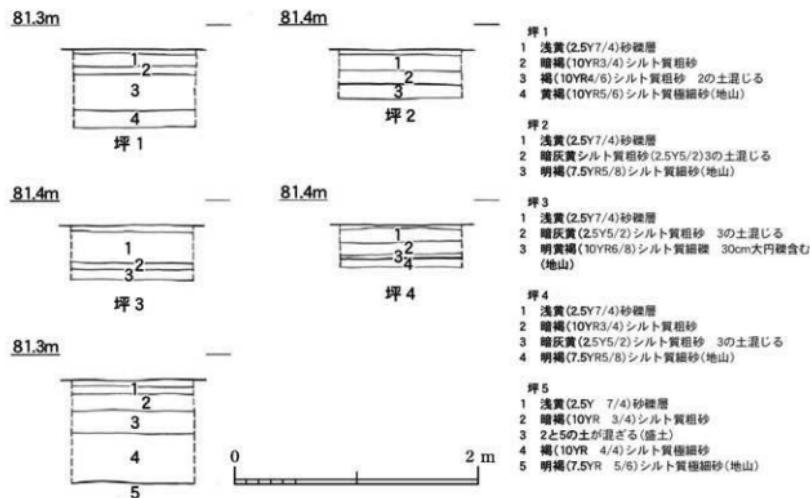


坪 5

開発申請地南東側に設定した坪で、碎石、浅黄色土層、暗褐色土層、盛土、褐色土層、地山からなっている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。いずれの坪で検出した地山も安定しており、遺跡が存在する可能性は考えられるが、これまでに遺構の存在が知られていなかったことから、後世の開発により削平された可能性が高いと思われる。



土層図



調査地遠景（南東から）



調査地遠景（北から）



調査地全景（南から）



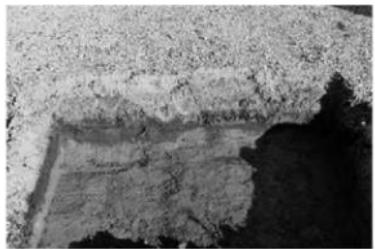
坪1 機械掘削



坪1 人力掘削



坪1（南から）



坪2（南から）



坪2 実測風景



坪3（南から）



坪4（南から）

19. 高岡・福田地区ほ場整備確認試掘（北工区）

所在地 神崎郡福崎町高岡

事業名 高岡福田地区ほ場整備事業

調査担当 橋口 碧・渡辺 昇

調査面積 試掘確認調査

調査期間 平成29年9月25日（月）～

平成29年12月25日（月）

（実働17日間）



調査地の位置

○調査に至る経過

福崎町では高岡福田地区においてほ場整備事業を計画している。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である觀音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡・林谷遺跡・桜遺跡・狐塚遺跡が存在する。事業用地内の分布調査を受けて試掘調査を

実施することとなった。平成28年度から調査を開始し、平成29年度は北工区の試掘確認調査を実施する計画であった。耕作物の都合などで大きく2期（前期は主に麦作部分）に分けて調査を実施した。平成29年9月25日（月）から順次試掘調査を行った。耕作物の都合などにより、調査日を決定したので、調査日が開いている場合もある。調査内容などは別途福崎町文化財調査報告の刊行を予定しているので、参照いただきたい。

調査日	調査地区	調査個所（坪No.）
9月25日（月）	板坂	97、98、99、100
9月26日（火）	板坂	92、93、94、95、96
9月27日（水）	桜	65、66、67、68、73、74
9月28日（木）	桜	56、57、58、59、60、61
10月3日（火）	桜	51、52、53、54、55、75、76
10月4日（水）	桜	13、14、15、16、43、44
10月17日（火）	桜	80、81、82、83、89
10月18日（水）	桜	86、87、88、90、91
11月20日（月）	桜	1、2、3、4、5、6、7
11月21日（火）	桜	1-1、8、9、10、11、84、85
11月22日（水）	桜	12、25、26、78、79
11月27日（月）	桜	18、19、20、21、22、27、28
11月28日（火）	桜	23、24、35、36、37、38
11月29日（水）	桜	30、32、34、49、50
12月2日（土）	桜	62、63、64、70
12月4日（月）	桜	46、47、48、71、72、77
12月25日（月）	桜	39、40、41

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸に位置し、市川と市川の支流である七種川によって形成された段丘面ならびに氾濫原にある。事業地の中に旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。事業地内を流れる大内川も一時期の旧河道の1つであったであろうと思われ、現在は河道となっている。七種川も氾濫を繰り返し、桜遺跡の一部にも旧河道が認められる。対象地は林谷遺跡の一部分は高位段丘面に位置しているが、大半は低位段丘面に属している。狐塚遺跡・桜遺跡と林谷遺跡の南側は低位段丘面に位置している。七種川周辺は氾濫原と谷底平野である。

桜遺跡で立会調査が1回行われただけで、大きな調査は実施されたことはなく、遺跡の内容はほとんど把握されていない。林谷遺跡で造成工事に際して縄文時代の遺物が出土しているが、明確な遺構は確認されていない。福崎西中学校周辺などで土器の出土が知られており、分布調査でも多くの土器が採集されている。北側の下々通遺跡では中世の包含層が確認されている。福田から山崎の丘陵には後期古墳が構築され、神谷の医王寺境内には後期末の方墳である神谷古墳が存在する。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は福崎町内唯一の古代寺院である。前田遺跡北西の谷部に立地する矢口遺跡では律令期の役人が使用したと言われる鉢帯（ベルト）の部品（遙方）が出土している。



狐塚遺跡周辺（北から）

○まとめ

確認調査の結果、各遺跡全体で遺構は確認していないが、一部で明瞭な遺構を確認している。狐塚遺跡は中央部と北端は遺構の残りが悪かったが、北側の一部（No.1）と南側（No.8～11）で中世の遺構が確認された。桜遺跡は予想以上に残存状態が悪く、南西部（No.3 4～3 7）と中央東側の一部（No.2 5）だけで遺構が確認された。中世の遺跡である。林谷遺跡北側（No.6 2～6 5）と南側（No.5 6～5 9）で遺構が確認されている。北側は台地部分であり、以前縄文時代の石器などが採集された地点の北側にある。今回の調査では古い時期のものは確認しておらず、旧出土地点隣接地は上面が削平されており、遺構は残存していないかった。南側は大形の遺構や炭・焼土を伴っている。古墳から中世にかけての集落跡であろう。

試掘調査の結果、林谷遺跡隣接地で遺構が確認され（No.6 6）、北東に遺跡が広がることがわかった。林谷遺跡と桜遺跡の間のNo.7 5だけ遺構を検出し、桜遺跡が広がっていることを確認した。桜遺跡と狐塚遺跡の間では、桜遺跡南東の字東畑（No.8 1～8 3）で中世の遺跡を新たに確認した。狐塚遺跡周辺ではNo.9 0で遺構が確認され、南東部に遺跡が延びていることを確認した。

今回の調査では林谷遺跡の南側で古代の遺構を確認した以外はすべて中世の遺構を検出した。ただ、1点だけ弥生時代に遡る可能性の高い土器があることや以前に林谷遺跡で縄文時代の石器が出土していることから、古代以前の遺跡が存在する可能性もある。

20. 清水遺跡（第2次）

所在地 福崎町福田97-1

事業名 宅地造成工事

調査担当 橋口 碧、渡辺 昇

調査面積 8m²

調査期間 平成30年1月10日（水）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成29年12月27日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における宅地造成工事にかかる第93条の発掘届出が提出され、平成30年1月10日（水）に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

清水遺跡は段丘上に位置し、東に大塚古墳、南東に福田東田黒遺跡が存在する。

古墳時代の遺物が採集されたことから周知の埋蔵文化財包蔵地として知られている。遺跡の北端で1次調査を実施したが遺構は確認されず、遺跡の性格等は分かっていない。

○調査の概要

坪1

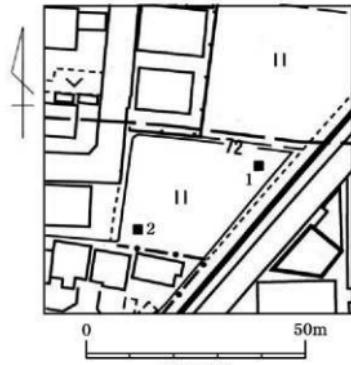
宅地造成予定地南西に設けた。

耕土、床土、灰オリーブ色土、暗褐色土、地山からなっている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪2

宅地造成予定地北東に設けた。

耕土、床土、暗褐色土、地山からなっている。遺構・遺物ともに確認されなかった。



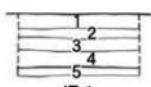
坪配置図

○まとめ

今回調査を実施した地点は、遺跡の南端に位置する。遺跡の北端で実施した1次調査では、耕土直下が現代のコンクリート片を含む盛土であり、遺構が破壊されている可能性も考えられたため、遺構の有無が不明である。

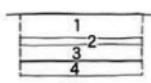
当該地は段丘上に位置しているが、北から南に向かって標高が下がっており、遺跡の南側には遺構の存在が希薄であると考えられる。

72.1m



坪 1

72.1m



坪 2

坪 1

- 1 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 2 黒褐色(2.5Y3/2)シルト質 細繊混ざる(床土)
- 3 灰オリーブ(5Y4/2)シルト質細砂 浅黄褐色(10YR 8/4)土少し混ざる
- 4 暗褐色(10YR3/3)シルト質粗砂
- 5 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質極細砂(地山)

坪 2

- 1 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)シルト質粗砂(耕土)
- 2 黒褐色(2.5Y3/2)シルト質 細繊混ざる(床土)
- 3 暗褐色(10YR3/3)シルト質細砂
- 4 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質極細砂(地山)

0

2 m

土層図



調査区全景（北西から）



調査区全景（北東から）



坪 1 (南から)



坪 1 実測風景



坪 2 (南から)



坪 2 埋戻し

2.1. 南田原字西光寺試掘

所在地 福崎町南田原字西光寺1382-3他
事業名 準公民館新築工事
調査担当 桶口 碧、渡辺 昇
調査面積 8m²
調査期間 平成30年1月17日（水）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

準公民館新築工事に伴う事前調整があり、小字が西光寺であることから、寺院の痕跡や寺院跡が発見される可能性があったため、平成30年1月4日（木）付けで工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て1月17日（水）に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川によって形成された段丘面にあたる。小字が西光寺であることから、西光寺という寺院がこの近辺にあったと推測される。調査対象地区の北西に位置する寶性院内には、家形石棺1点の他、小型の石棺が2点存在し、周辺に古墳があったことを示唆するが、西光寺野開墾により、消失してしまった可能性がある。また、周囲に周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されていないことも、それが原因と考えられる。

○調査の概要

1 トレンチ

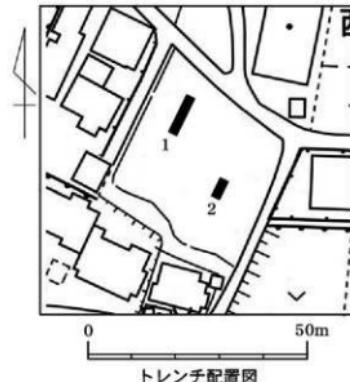
建物建設予定地北西側に設定したトレンチで、第1層は黒褐色シルト質砂礫、第2層は橙褐色シルト質細砂、第3層は褐褐色シルト質極細砂、第4層は暗褐色シルト質細砂（第3層の土含む）、第5層は明褐色シルト、第6層は地山で明褐色シルト（礫含む）である。第5層に溝状遺構が確認された。第1層下面から土師器片が出土した。

2 トレンチ

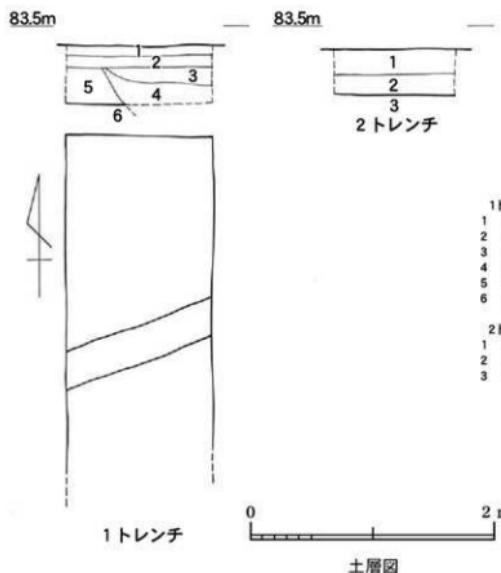
建物建設予定地南東側に設定したトレンチで、第1層は黒褐色シルト質細砂、第2層は黒褐色シルト質細砂、第3層は地山で明褐色シルト質（礫含む）である。遺構、遺物は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査で、トレンチ1から溝状遺構が確認された。遺構に遺物が伴わなかつたため時期は不明であるが、寶性院に近接しており、字名が西光寺であることから、寺院関係の遺構の可能性がある。文化財保護法第96条により遺跡発見届出を行い、「西光寺中遺跡」として埋蔵文化財包蔵地登録を行った。



トレンチ配置図



調査地全景（南から）



調査地全景（北から）



1 トレンチ（南から）



1 トレンチ北壁



1 トレンチ機械掘削



1 トレンチ拡張（北東から）



1 トレンチ溝（東から）



1 トレンチ溝（北から）



1 トレンチ実測風景



2 トレンチ入力掘削



2 トレンチ（南西から）



2 トレンチ南壁

2.2. 南田原桶川遺跡（第9次）
 所在地 福崎町南田原3147-1
 事業名 店舗新築工事
 調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
 調査面積 8m²
 調査期間 平成30年2月5日（月）

○調査に至る経過

平成30年1月16日に、工事主体者から周知の埋蔵文化財公表地内における店舗新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年2月5日（月）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

南田原桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、近くに安徳寺や桶川の泉が存在する。今回の調査地点より東に位置する平成24年度の第4次調査では、遺構や遺物は見つかってはいないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が検出された。また、北東側に位置する平成10年度の第2次調査では、包含層と溝状遺構やピットが見つかっており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世（12～15世紀代）の少量の遺物が見つかった。その南に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は見つかっていないが近世の遺物が少量見つかった。

他は、近くには南田原条里遺跡があり、南田原桶川遺跡よりやや南側に位置する。南田原条里遺跡の範囲の北側で、平成25年度の第22、23次調査では奈良時代の溝状遺構を検出しており、さらに北側へ遺構が展開していく可能性を示唆しているものであった。

○調査の概要

坪1

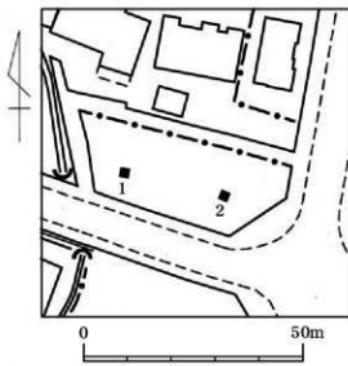
調査地点の西側で駐車場予定地に設定した。

造成土、黒色土から成っている。黒色土直下に現代のゴミがあり、攪乱を受けていると考えられる。

坪2

調査地点の東側で、店舗建築予定地に設定した。

造成土、黒色土、耕土、地山から成っている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

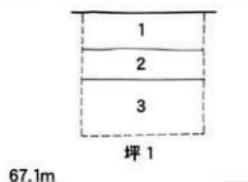


○まとめ

今回の調査地点の北側には安徳寺、県道を挟んだ北東側では中世の遺構が確認されていたため、遺構

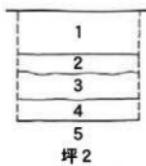
の広がりが確認できると期待できた。周辺の調査の結果、当地点の周辺は自然河道及びその氾濫原と微高地と考えられる場所が確認されている。今回の調査の結果、坪2は地山面まで掘削したところ遺構が確認されず、坪1においては攪乱のため遺構を確認できなかった。坪1も地山を検出した坪2と同レベルまで掘り下げているため、遺構は存在しないものと思われ、調査対象地区は遺跡外と考えられる。

67.1m



坪1

67.1m



坪2



土層図

坪1

- 1 オリーブ褐色(2.5YR 4/4)シルト 5cm以下の角礫含む(造成土)
- 2 灰オリーブ(5Y 5/3)シルト 5cm以下の角礫含む(造成土)
- 3 黒(2.5Y 2/1)シルト

坪2

- 1 オリーブ褐色(2.5YR 4/4)シルト 5cm以下の角礫含む(造成土)
- 2 灰オリーブ(5Y 5/3)シルト 5cm以下の角礫含む(造成土)
- 3 黒(2.5Y 2/1)シルト
- 4 緑オリーブ褐色(2.5Y 3/3)シルト(耕土)
- 5 オリーブ褐色(2.5Y 4/4)シルト 円礫多く含む(地山)



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



坪1 西壁



坪2 西壁

2.3. 福崎駅周辺整備試掘

所在地 福崎町福田地内
事業名 福崎駅前整備事業
調査担当 樋口 碧・渡辺 昇
調査面積 28m²
調査期間 平成29年6月19日(月)
平成29年12月12日(火)
～平成30年2月5日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成28年度に福崎駅前再開発事業に伴って、6月1日(水)に福崎町(まちづくり課)から照会があり、埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施することになった。

北側県道部分については兵庫県福崎土木事務所が施工することから、兵庫県教育委員会が6月15日(水)に試掘調査を実施した。引き続き福崎町教育委員会が福崎町施工部分について試掘調査を行うことになった。買収状況によって随時調査を行うこととし、平成28年6月28日(火)に3か所、9月14日(水)に5か所、11月25日(金)に2か所の計10か所の試掘調査を行った。その結果、一部で遺構が確認されたため、中溝遺跡と命名して遺跡発見通知を進達し、平成28年12月19日(月)、20日(火)に本体工事が行われる坪13周辺の本発掘調査を実施した。平成29年度は平成28年度調査出来なかった調査区について試掘調査を行った。6月19日(月)に坪5・6・9・17の4か所の調査を行った。坪17は設定して掘り下げたが、コンクリート基礎が検出され掘り下げ困難となった。そのため基礎のない西側部分に改めて坪17-1を設定して調査を行った。また、坪10については5月22日(月)に建物解体に伴って工事立会を行った。

引き続き、調査可能となった坪8と坪12近接地を平成29年12月12日(火)に調査を実施した。また、駐車場として調査出来なかった坪4を平成30年2月5日(月)に調査を行い、駅前試掘調査を終了した。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置している。遺跡は線路を隔てた福崎駅北側に清水遺跡が、東北東に福田東田黒遺跡が存在する。

福崎駅周辺は宅地化が早く地表面の確認が実施できず、埋蔵文化財の存在が不明確な地域である。市街地であることから表面観察から判断することは不可能なので試掘調査を実施した。

昨年度の試掘調査では坪13・坪16で遺構が確認され、微高地が存在することが明らかになっている。今年度調査結果では遺構は確認されず、規模の小さな微高地と思われる。

○調査の概要

坪4は5層から成る。第1層はアスファルトで、第2層は盛土である。第3層はにぶい黄褐色シルト質極細砂で明黄褐色細砂を含んでいる。第4層は暗褐色シルト質極細砂で小礫を含んでいる。第5層はにぶい黄褐色砂礫で地山である。第5層の地山は安定しており、微高地を形成した層と思われる。地形的に北側ならびに東側に向かって低くなっている。県道東側にはこの砂礫層は認められない。微高地は遺構が確認された坪13から坪4方向に延びているものと思われる。今回の調査では地山面で遺構・遺物は確認されていない。

坪5は7層から成る。第1層は碎石で、第2層・第3層は盛土である。第2層は黒褐色砂礫で円礫を

多く含んでいる。第3層の上面は灰白の廃土（カーバイドなど）が堆積し、第3層は礫・瓦・タイルを含む層である。下面中央に南北の溝が確認された。屋敷溝と思われる。第4層は黒シルト、第5層は黄灰シルト質極細砂、第6層は黄褐シルト質極細砂である。第6層は西から東に落ち込んでおり、西側が微高地になっている。西側の高い部分の第6層は色調を暗褐に変えており、土壤化し安定したことを示している。暗褐シルト質極細砂の下には灰オリーブの砂礫層があり洪水による高まりが形成されたものと言えよう。坪5での遺構・遺物は近現代のものしか確認していないが、坪5以西の微高地部分には遺跡が広がっている可能性がある。

坪6は6層から成る。第1層は碎石で、第2層・第3層は盛土である。第3層の盛土には瓦・陶磁器が入っている。第4層はオリーブ黒中砂、第5層は灰中砂、第6層は灰オリーブシルト質極細砂である。その下が地山である。第4層～第6層は自然堆積で、遺構・遺物は確認されていない。

坪8は9層から成る。第1層は碎石で、第2層は黒褐シルト質極細砂で焼土を含んでいる。第3層はオリーブ褐シルト質極細砂である。第4層は耕土、第5層は盛土である。第6層は灰黄褐シルト質極細砂で小礫を含んでいる。第7層は褐粗砂、第8層は灰黄褐砂礫、第9層は黄褐シルト質極細砂である。第2層・第3層は現代の生活面までの堆積層（一部人為層）で、第4層は近世から近代の耕作土、第5層は水田經營に伴う盛土で、第6層・第7層・第8層は洪水堆積層で、第9層は地山である。遺構・遺物は確認されていない。

坪9は8層から成る。第1層は碎石で、第2層は盛土、第3層は耕土である。耕土は幅80cmの畝になっており、畑であったことが推測される。第4層にはぶい黄褐シルト質極細砂、第5層は灰黄褐シルト質極細砂、第6層は第5層より暗い灰黄褐シルト質極細砂、第7層は黒シルト、第8層は黒褐砂礫、その下が地山である黄褐シルトである。第4層～第8層は自然堆積で、遺構・遺物は確認されていない。

坪10は解体作業後に本体工事が一部行われたので、その際に立会を行った。盛土・攪乱土で、包含層や遺構面は確認されなかった。

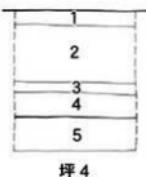
坪12調査予定地点での試掘調査が困難だったことから、西側にずらして坪12-1を設定した。機械掘削を行ったところコンクリートのベタ基礎があり、掘り下げ困難だったので、そのまま埋め戻した。

坪17は当初東側に設定した。約0.5m掘り下げたところ鉄筋を伴う基礎が検出し、掘削困難となった。基礎を避けて西側に広げたが電線と思われる配線を検出したので、掘削を断念した。約5m西側に新たに坪17-1を設定した。南側で水道管が確認されたので、幅を狭くして北側に位置をずらした。坪17-1は7層から成る。第1層は表土・芝生である。第2層は盛土である山土、第3層は碎石、第4層は攪乱層（盛土）、第5層は耕土で、第6層がにぶい黄褐細砂で、第7層は黒褐シルト質極細砂で、その下が地山である明黄褐シルト質極細砂である。第4層には近現代の瓦・タイルが含まれており、第6層は中溝遺跡の包含層相当層と思われるが遺物は出土していない。遺構は検出されず、遺物も近現代のもので、近世以前の遺物は確認されていない。

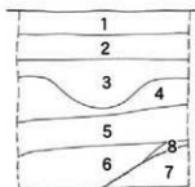
○まとめ

今回の試掘調査では、遺構・遺物は確認されなかった。坪5・坪17-1西側に微高地が存在する可能性が考えられる。坪13・坪16から延びる微高地は坪4方向に続いている可能性が高い。坪12-1では基礎のため調査不能であったが、今までの試掘調査結果で面的なコンクリート基礎があるところは、遺構面が残存していなかったので、同様の判断をした。

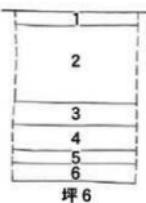
71.4m



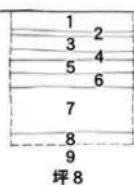
71.0m



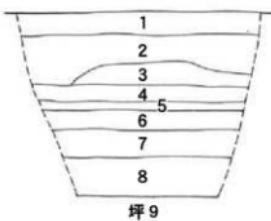
71.6m



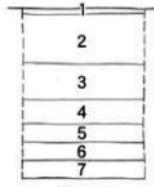
69.6m



68.9m



70.9m



坪4

- 1 アスファルト
- 2 盛土
- 3 にふい黄褐色(10Y4/3)シルト質極細砂
- 4 塗覆(10Y3/4)シルト質極細砂
- 5 にふい黄褐色(10Y5/4)砂礫 (地山)

坪5

- 1 砂石
- 2 盛土
- 3 盛土
- 4 黒(2.5Y2/1)シルト
- 5 黄灰(2.5Y4/1)シルト質極細砂
- 6 黄褐色(2.5Y5/3)シルト質極細砂
- 7 灰オーリーブ(7.5Y5/2)砂礫

坪6

- 1 砂石
- 2 盛土
- 3 盛土(瓦・陶器含む)
- 4 オーリーブ黒(10Y3/1)中砂
- 5 灰(5Y4/1)中砂
- 6 灰オーリーブ(5Y5/3)シルト質極細砂

坪8

- 1 砂石
- 2 黒褐(10Y3/1)シルト質極細砂
- 3 オーリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質極細砂
- 4 耕土
- 5 盛土
- 6 灰黄褐色(10Y4/2)シルト質極細砂
- 7 塗(10Y4/4)粗砂
- 8 灰黄褐色(10Y5/2)砂礫

坪9

- 1 砂石
- 2 盛土
- 3 耕土
- 4 にふい黄褐色(10YR5/3)シルト質極細砂
- 5 灰黄褐色(10YR5/2)シルト質極細砂
- 6 灰黄褐色(10Y4/2)シルト質極細砂
- 7 黑(10Y2/1)シルト
- 8 黑褐(2.5Y3/2)砂礫

0

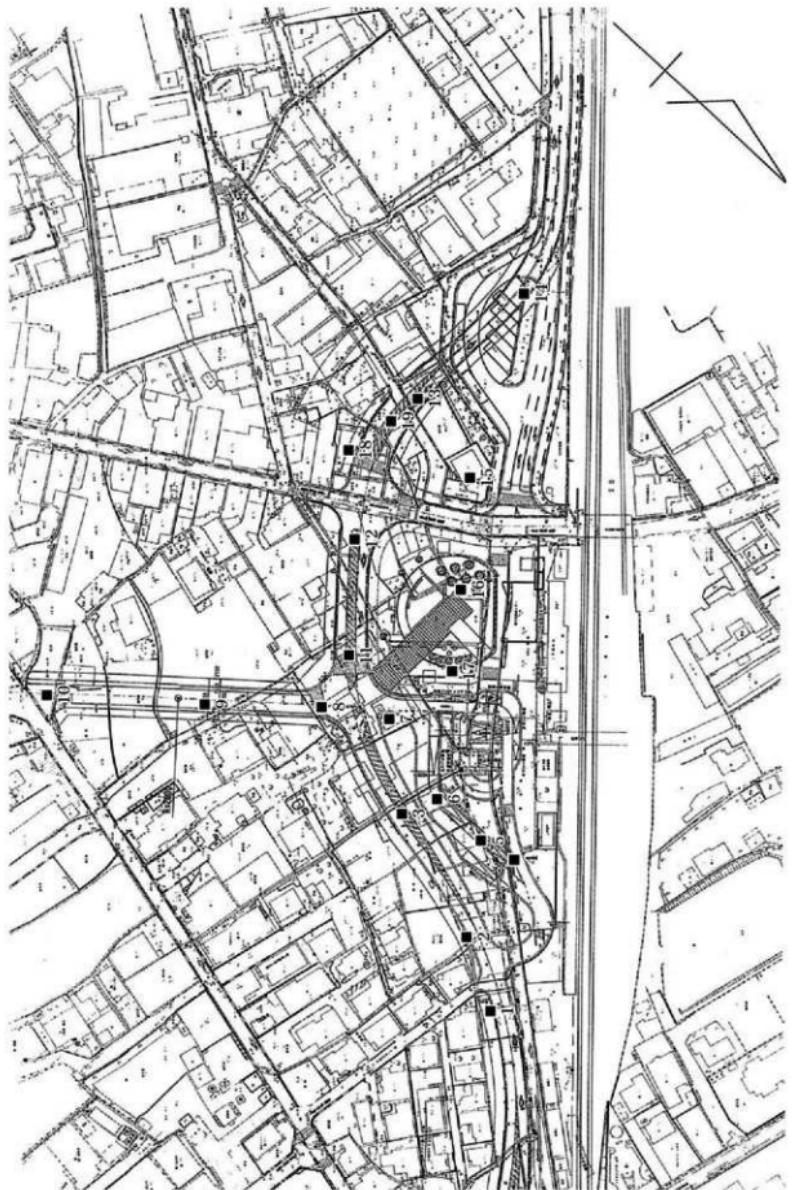
2 m

坪17-1

- 1 表土芝生
- 2 盛土
- 3 砂石
- 4 盛土
- 5 耕土
- 6 にふい黄褐色(10YR5/4)細砂
- 7 黑褐(10Y2/2)極細砂(包含層相当層)

土層図

坪配置図





坪 5 機械掘削



坪 5 南壁



坪 6 南壁



坪 6 埋戻し後(南から)



坪 9 調査前



坪 9 南壁



坪 17 調査前（西から）



坪 17-1 東壁

2.4. 八千種字東垣内試掘

所在地 福崎町八千種字東垣内650番6
事業名 宅地造成工事
調査担当 橋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8m²
調査期間 平成30年2月7日（水）

○調査に至る経過

宅地造成工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所が余田大歳神社に近接していることから、神社の関連遺構が発見される可能性があったため、平成30年1月22日付けで工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成30年2月7日（水）に試掘調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川の支流である平田川東岸に位置し地形区分上は高位段丘面に位置づけられる。

調査地点の西側には縄文時代から中世の遺跡として知られる八千種庄古屋敷遺跡、八千種庄北狭遺跡、八千種庄春日遺跡、奈良時代の遺跡として知られる八千種余田大谷遺跡があり、東側には奈良時代の遺跡として知られる八千種庄宮ノ池沢遺跡、八千種庄文遺跡、八千種庄文治口遺跡が位置している。いずれも平成6年度のほ場整備事業に先立つ分布調査により発見されている。

調査地点周辺は、古くから集落を形成しており、ほ場整備等の開発行為対象とはならなかったため、過去に調査が行われておらず、新たな遺跡が発見される可能性が高い地区である。

○調査の概要

坪1

調査地点の東側で駐車場予定地に設定した。耕土、黄褐色土、地山からなっている。遺構、遺物ともに確認されなかった。

坪2

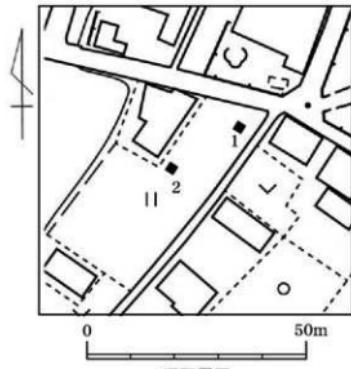
調査地点の西側で建物建設予定地に設定した。耕土、褐色土、地山からなっている。褐色土は、坪西側に10cm程度堆積していたが、東に向かうにつれ薄くなっていた。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

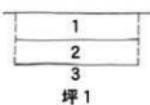
○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。

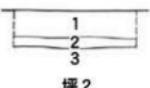
調査地点に遺構は存在しないが、坪2で褐色土が西側に向かうにつれ厚くなっていることから、遺構の存在は調査地点より西にある可能性が考えられる。



85.2m



85.2m



坪 1

- 1 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト 細礫含む(耕土)
- 2 黄褐(2.5Y5/4)シルト 細礫含む
- 3 明黄褐(10YR6/8)シルト 角礫含む(地山)

坪 2

- 1 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト 細礫含む(耕土)
- 2 褐(10YR4/4)シルト質粗砂
- 3 明黄褐(10YR6/8)シルト 角礫含む(地山)



土層図



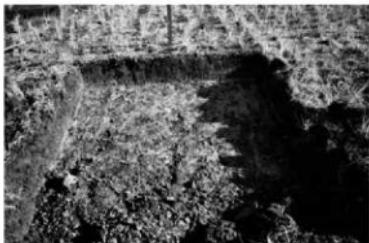
調査区全景（南から）



坪 1 機械掘削



坪 1 (南から)



坪 2 (南から)

25. 鎌冶屋遺跡（第3次）

所在地 福崎町八千種字代ノ岡3618番5
事業名 個人住宅建設
調査担当 橋口 碧・渡辺 昇
調査面積 4m²
調査期間 平成30年2月7日（水）

○調査に至る経過

平成30年2月1日付けで工事主体者から、周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。それを受けて平成30年2月7日（水）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川の支流である平田川東岸に位置し地形区分上は高位段丘面に位置づけられる。鎌冶屋遺跡は段丘面に広がる遺跡で古代から中世にかけての遺物が採集されている。北側の段丘上には八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄北堀遺跡が存在しており、平成9年度には場整備事業に伴って発掘調査が実施されている。西側の段丘面上には昭和52年と早い段階に、弥生時代の方形周溝墓が調査された玉屋遺跡がある。

○坪の概要

建物建設予定地に坪を設定した。

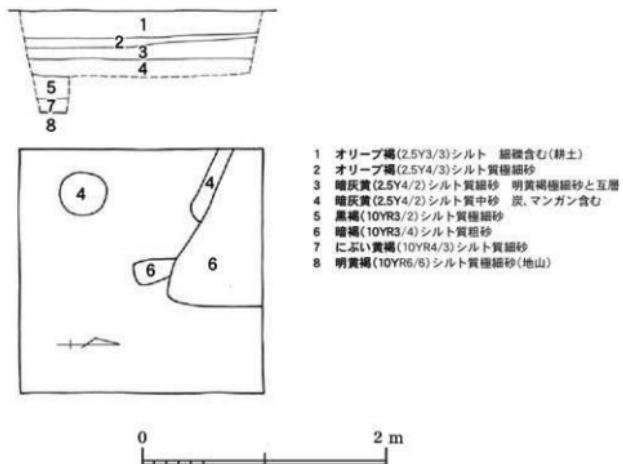
第1層は耕土、第2層はオリーブ褐極細砂、第3層は暗灰黄細砂（明黄褐極細砂と互層になる）、第4層は暗灰黄中砂、第5層は黒褐極細砂（上面にマンガン層、炭含む）、第6層にはぶい黄褐細砂、第7層は地山である明黄褐シルト質極細砂である。第2～4層は緩やかに堆積した層で部分的な互層になっている。礫などを含まない大きな洪水を受けていない層で、中世の須恵器・土師器・備前焼を含んでいる。第5層上面にはマンガンが堆積しており、この面が遺構面である。落ち込みとピットを検出している。埋土は暗褐細砂で中世の遺構である。同一面に第4層を埋土とする新しい時期の遺構も存在する。念のため一部断ち割り調査を行い、地山まで掘り下げた。地山面では遺構は確認されなかつた。



○まとめ

今回の調査では、第5層上面で遺構を確認し、中世の遺物も出土している。炭・焼土も認められ、生活痕跡がうかがわれる。個人住宅建設に際して本発掘調査を実施する。

74.7m



土層図



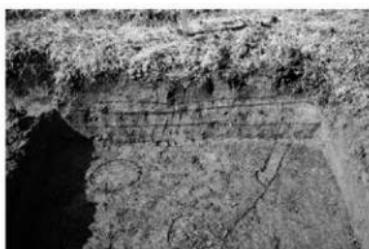
機械掘削



人力掘削



断割り



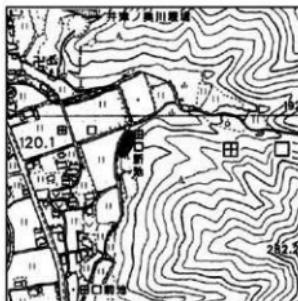
坪全景（東から）

26. 田口トツタニ遺跡（第1次）

所在地 福崎町田口字トツタニ 683-19
事業名 遺跡範囲確認
調査担当 橋口 碧・渡辺 昇
調査面積 23.4 m²
調査期間 平成30年1月24日（水）～30日（火）

○調査に至る経過

田口字トツタニの私有林である杉林で暴風による倒木があり、枯れた杉とともに片付けが行われ、その跡地にサクラ・モミジの植栽工事が個人で行われた。その際に陶器が五輪塔とともに出土した。地権者から福崎町教育委員会に連絡があり、担当者が現地確認を行った。壺は取り上げられ、現地は植栽をせず埋め戻されていた。壺は洗浄され中には火葬骨が入っていた。中世墓で新たな遺跡の確認となったことから、遺跡発見届の提出をお願いした。平成29年1月20日付で遺跡発見届が出され、埋蔵文化財包蔵地に追加した。現地は五輪塔や石材が散乱した状況であったので、現状確認ならびに可能な範囲での遺跡範囲確認調査を実施することとし、平成30年1月24日（水）から着手した。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査の方法

調査対象地区の地目は山林である。すべて人力掘削によって実施した。平面・壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。近接して平坦面が認められたので、トレーナーを2本設定して遺跡の広がりの確認も行った。調査終了後、埋戻し作業も行った。

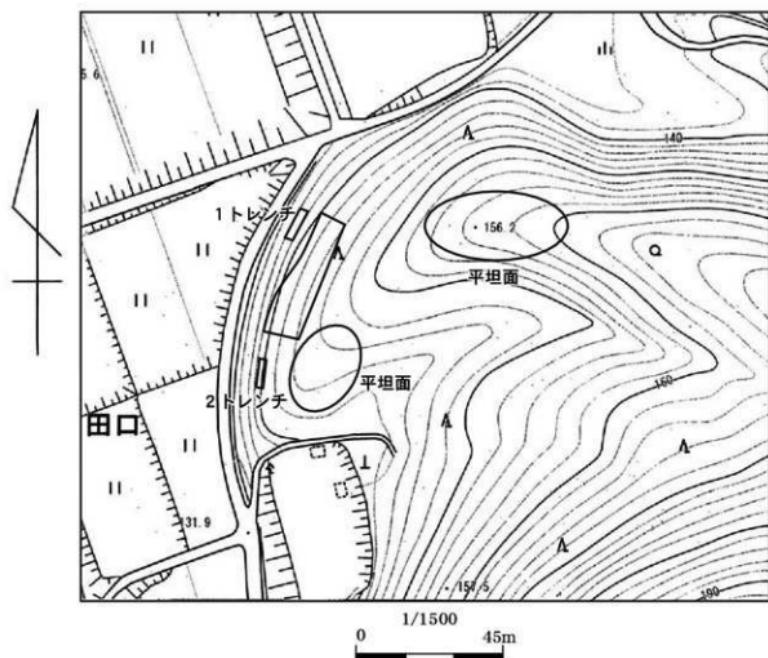
○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸に位置する山塊である。市川の支流である七種川などによって開拓された谷部が入り組んでいる。谷部との変換点に近い山裾に近い丘陵部に位置している。七種川が流れる谷部は奈良時代に創建されたと言われる七種寺があり、広く流域に寺院関連の遺構が広がっていたと思われる。源流周辺の山は播磨国風土記にいう「奈具佐山」の故地と考えられており、七種川源流近くには作門寺が隆盛を極めており、七種川沿いの両岸には多くの平坦面が残存している。作門寺は昭和3年金剛城寺に改称している。現在、金剛城寺は田口トツタニ遺跡の対岸となる七種川西側に堂宇を建立しており、金剛城寺からも田口トツタニ遺跡を見ることが出来る位置関係にある。また、巡礼道が山裾を通っており信仰の対象となっていた地域であることも関係があろうかと思われる。

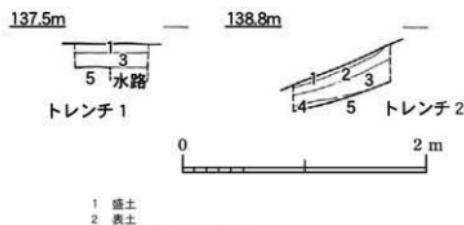
○調査の概要

層序は、第1層は腐植土を主とする表土、第2層にはぶい黄褐色細砂、第3層は地山であるにぶい黄褐色砂礫である。部分的に倒木片付け時など盛土が表土上に存在する。傾斜する低い方となる西側では表土直下が地山になっている部分もあった。地山面が遺構面で中世墓が構築されている。

平坦面は東西3m（北端は狭く1.5m）、南北7.5mを調査した。南北に各々2m前後平坦面が続いていること、遺構が広がっていることは確実である。調査した遺構は中世墓で14基確認した。北東から順に遺構番号を与えており、また、墓を開む区画もあったと思われる。切り合ひ関係があり明瞭ではないが、9号墓・11号墓を開む区画など複数の区画が存在したと思われる。

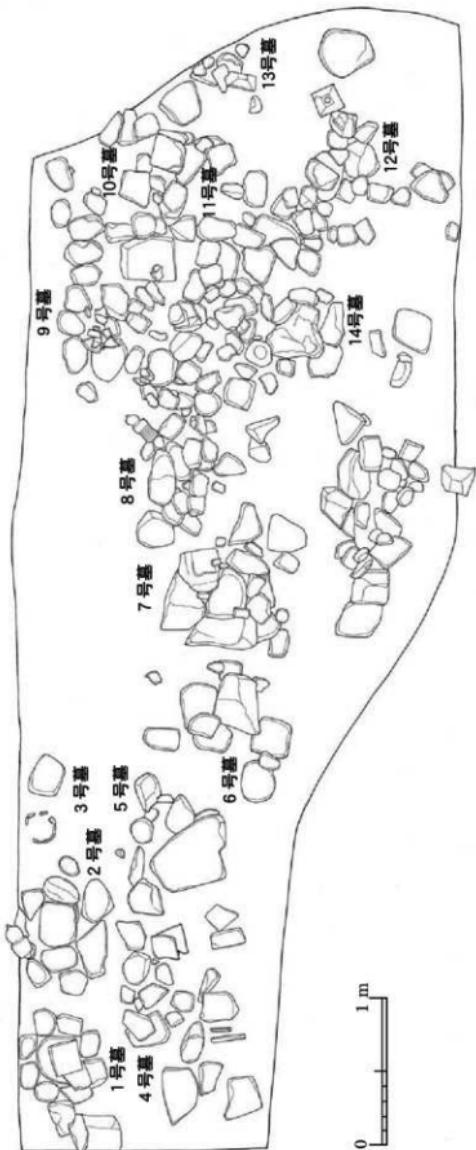


田口トツタニ遺跡調査地点図

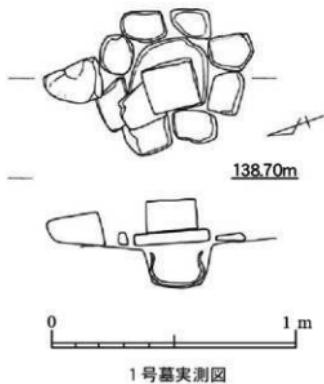


- 1 盛土
- 2 売土
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂
- 4 褐(10YR4/4)細砂
- 5 にぶい赤褐(10YR2/2)極細砂 粒含む(地山)

トレーンチ土層図



遺跡平面図



1号墓実測図

1号墓は南北6.2cm、東西6.0cmを測る不定円形を呈している。8石を周間に配し、内部に蔵骨器である土師器鍋を据えている。その上に最大長3.2cmの大形石材を蓋石としている。蓋石の上には五輪塔の地輪が置かれており、原位置を保っている。蔵骨器内には火葬骨が入れられている。五輪塔は水輪から上は残存していないかったが、この位置にあったことは確実で、周辺で採集された五輪塔火輪などが同一個体の可能性が高い。周辺から鉄釘が3点出土しているが、別遺構のものであろう。

2号墓は1号墓の南側に裾間1.2cmを開けて構築している。やはり9石を不定円形に配している。中央に蓋石である長さ3.0cmを配している。蔵骨器は用いず、火葬骨を直葬している。上面から五輪塔風空輪が出土しているが、この墓のものか不明である。

3号墓は2号墓の南側に位置するが、調査段階で上部は削平されていた。調査前に採集した備前焼壺と今回検出した壺が接合したことから、3号墓上部から南側が掘削されたものと思われる。備前焼壺の大きさに掘られた墓壙に壺がほぼまっすぐ正位に置かれていた。

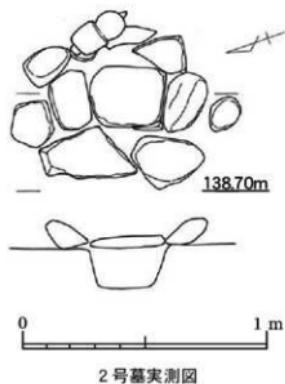
南側に石材が1石あり、この墓のものかと思われる。内部には火葬骨が入れられていた。

4号墓は1号墓と2号墓の西側に位置している。南北4.5cm、東西4.0cmの方形プランの石組であるが、元の状況を残しておらず、少なからず移動しているものと思われる。蓋石は残存していない。中央で火葬骨が出土している。現状で蔵骨器が存在しないことから、火葬骨直葬としておく。土師器小皿が1点出土している。

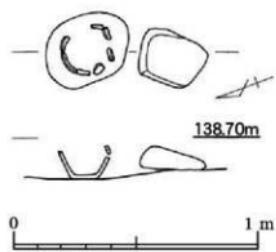
5号墓は4号墓の南側にあり、旧状を残していない。中央に最大長5.8cmの石材があり蓋石と思われる。原位置を移動しており、下に埋葬施設は認められなかった。現況で南北9.2cm、東西6.4cmを測る方形プランである。

6号墓は5号墓の南側にある。石材が集積しているが、明瞭なプランを示さない。後世に改変された可能性が高い。現況で最大長9.6cmを測る。土師器鍋の口縁部破片が出土しているので、鍋を蔵骨器とした主体部だった可能性がある。

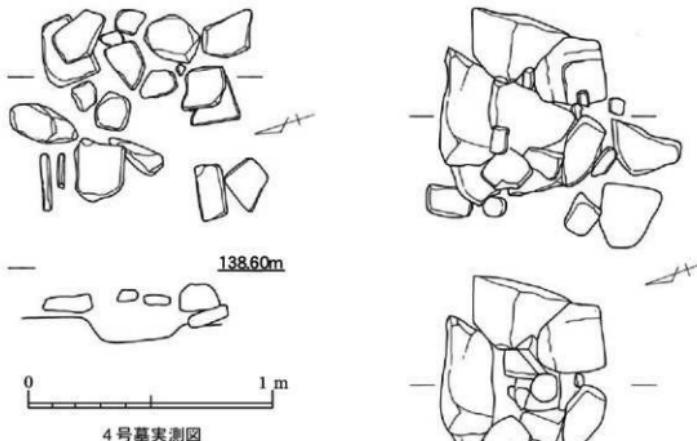
7号墓は6号墓の南側に位置している方形プランの墓である。南北6.5cm、東西8.2cmを測る。比較的角礫が多く使用され、石材も大きめである。東辺に大きめの角礫が使用されており、レベル的に蓋石の方が低くなっている。墓壙を掘り蔵骨器を埋納してから、蓋石を先に設置してから周間に石を配したものと思われる。蔵骨器は東播磨産の須恵器壺が使用されている。



2号墓実測図



3号墓実測図



4号墓実測図

8号墓は7号墓の南東部に位置している。上部に相輪が出土した石組を検出した。石材の下からは明瞭な墓壇は確認されなかった。相輪はこの墓に伴わず周辺の墓にあった可能性が高い。宝篋印塔の相輪であろう。

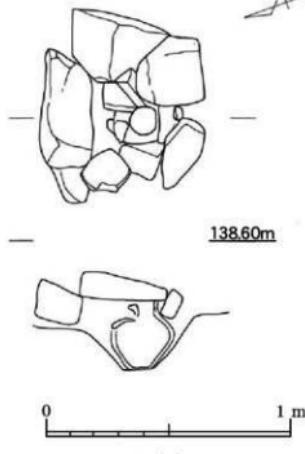
9号墓は方形プランで今回調査した中では最も大きな墓である。南北150cm、東西110cmを測る。東辺と南辺は直線で整然としているが、他の2辺は石列が一部途切れ歪になっている。北辺は95cmと短く平面形が台形になる。1号墓と一緒に墓であった可能性も残っており、同じ墓なら東西145cmになる。中央に備前焼壺が据えられていた以外に、北東部に備前焼壺が置かれ、南東部にも備前焼小壺が置かれていた。当初小壺は副葬品と思ったが、内部にやはり火葬骨が入れられていたことから蔵骨器であった。北東部の壺は底部だけの出土で火葬骨は認められなかったが、やはり蔵骨器と思われる。調査前に採集した破片と接合したことから、採集されたほぼ完形の備前焼壺もこの墓に埋納されていた可能性が高い。

10号墓は9号墓の南側にあり、北側の一部を9号墓に切られている。南側は未調査である。現況で東西105cm、南北80cmを測る。方形プランと思われるが9号墓などと主軸方向が変化している。未調査部分もあることから、石組内の調査は行っていない。

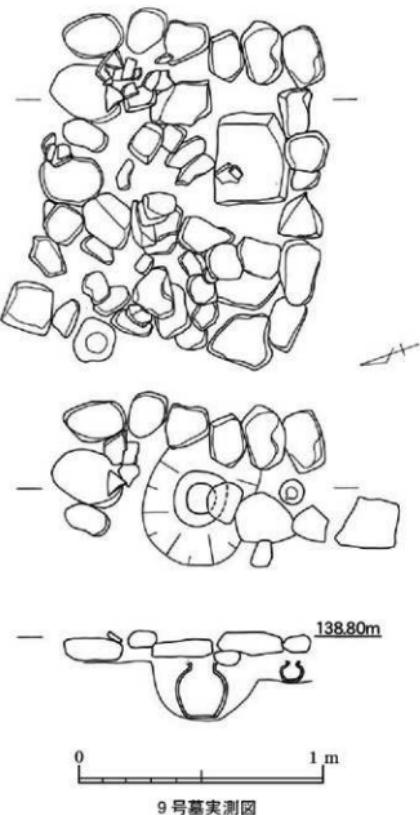
11号墓は9号墓の西側に位置し、下面に存在する墓である。9号墓と同じ墓かもしれない。一応、9号墓に切られた墓と考えておく。南北90cmで東西は45cmを測る。五輪塔の水輪と地輪が出土している。

12号墓は調査区南西部にあり、切り合い関係ではなく、少し離れている。南北85cm、東西80cmを測る。南側に五輪塔火輪が出土している。掘り下げは行っていない。

13号墓は調査区南端で検出した墓で大半は未調査である。そのため規模も明確でない。五輪塔火輪が出土している。



7号墓実測図



9号墓実測図

調整で仕上げている。(2)は3号墓出土の備前焼壺で大きめの平底から肩の張る体部になる。少し外反する口縁部で端部は肥厚する。(3)は4号墓出土の土師器小皿である。この墓は直葬墓と思われ、数少ない副葬品である。ロクロを使用しない京都系の皿で、体部中央で変化し端部は尖りぎみである。ナデ仕上げで煤が付着している。(4)は7号墓出土の須恵器壺である。平底から外傾し緩やかな肩部から頸部になり、外反する口縁部になる。端部は外側につまみ出している。底部は糸切りである。(5)～(8)は9号墓出土である。(5)は備前焼壺口縁部である。外傾し端部肥厚する。(6)は丹波焼壺で口縁部を欠いている。平底から内湾する体部になる。(7)は備前焼壺で大きめの平底から内湾する体部になる。口縁部は外傾し端部肥厚する。(8)は備前焼小壺で、当初副葬品と思っていたが、骨を埋納していたことから、これも藏骨器である。平底から球形の体部になり、口縁部は外反する。片口を有し、底部は糸切りである。(9)(10)は植栽中に出土したものである。(9)は備前焼壺でほぼ完形である。平底から内湾する体部で口縁部は直立し端部が僅かに肥厚する。(10)は丹波焼壺で口縁部を欠いている。平底から内湾する体部で肩は丸い。

鉄器は3点出土している。すべて鉄釘で1号墓周辺から出土している。遺構上面の堆積土から

14号墓は11号墓の西側に位置している。最大長45cmの大形の石材を配している。掘り下げは行っていない。墓でないかも知れない。

遺構番号は与えていないが、北側にも石材の集積が見られる。明瞭な石組ではないが、墓の可能性もある。少なくとも墓に使用された転落材ではある。五輪塔残欠が含まれる。1号墓周辺で出土した鉄釘は調査区外北側の墓のものと思われる。

調査区南北にも墓が広がっていることは確実である。平坦面の規模から見て、2基ずつ程度であろうか。

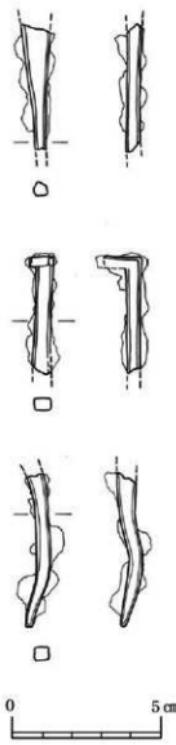
調査区周辺にも平坦面が認められたので確認を行った。西側の低い部分に1トレンチを設定した。水路が確認され、用水路設置のための平坦面であること、他の遺構遺物は確認されなかった。南側にも平坦面があり2トレンチを設定したが、遺構遺物は認められなかった。斜面上方にも幾つか平坦面を確認したが、今回は確認調査を行っていない。

○出土遺物

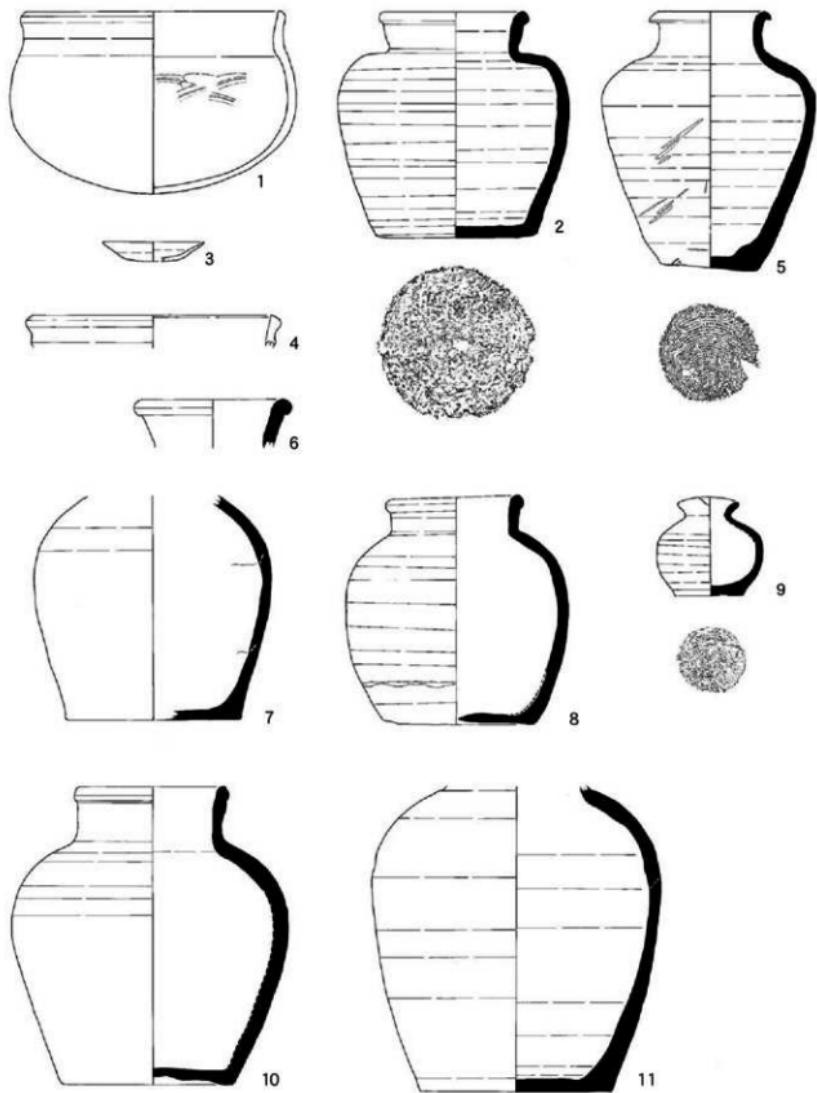
藏骨器・石造物が大半で、少量の土師器皿と鉄釘が出土している。(1)は1号墓出土の土師器鍋である。いわゆる播磨型と呼ばれるもので、下膨れの丸底から体部になり、僅かな頸部を持って直立気味に延びる口縁部になる。端部は内側に尖っている。外面は平行タタキ、内面は当て具痕があり、ナデ

出土しており、北側もしくは東側の未調査部分から流れたものと思われる。断面方形で頭部は折り曲げている。

石造物は25点図化した。それ以外に地輪と思われる小片3点と水輪2点と墓に使用したかと思われる板材が出土している。石材はすべて凝灰岩で高室石と思われる。(S1)は宝篋印塔の相輪で、九輪の上六輪から先が残っている。宝珠先端は欠いているが円錐形に尖っている。最大径は中央より上有る。受花の連弁は先が尖っておらず直線的に近くなる。8弁で浅く彫っている。九輪の擦管は浅く、径の広がりは大きめであろうか。(S2)は宝篋印塔塔身で1面のみ残っている。郭など有さず中央に薬師三尊の日光菩薩を表す彫を彫っている。(S3)～(S7)は風空輪である。(S3)が最も大きく、空輪先端を大きく尖らせている。(S7)は風輪の下部だけが表面残る保存状態の悪い小片である。(S8)～(S12)は火輪である。軒口は比較的平坦であり上がっていないもの(S10)と上がっているもの(S9)に分けられる。枘孔は比較的深く下げられており、断面U字形と逆台形がある。(S13)～(S16)は水輪である。最大径が中央より上部に位置する壺形が主体であるが、(S16)のように扁平なものもある。上下の接合面はノミ痕が顕著に残る。(S17)～(S23)は地輪である。上面の水輪との接合面は大きく掘り込んでおり、明瞭なノミ痕が見られる。高さには多少のばらつきがある。底面は上面同様整形痕を残すものと平滑なものがある。自然面をそのまま利用したと思われる。側面にも整形痕が残り、他の部材よりは丁寧な仕上げを行っていない。ただ、接合面の粗いものは細かいノミ痕である。(S24)は一石五輪塔である。基部と地輪の一部が残存している。断面は方形で、基部の長さは24.5cmと通有かやや長めである。地輪の縁り込みは左右1cm程度と浅い。(S25)は板状の石材で中世墓に使用した石材である。整形痕を明瞭に残す。同様の石材は比較的多く出土している。

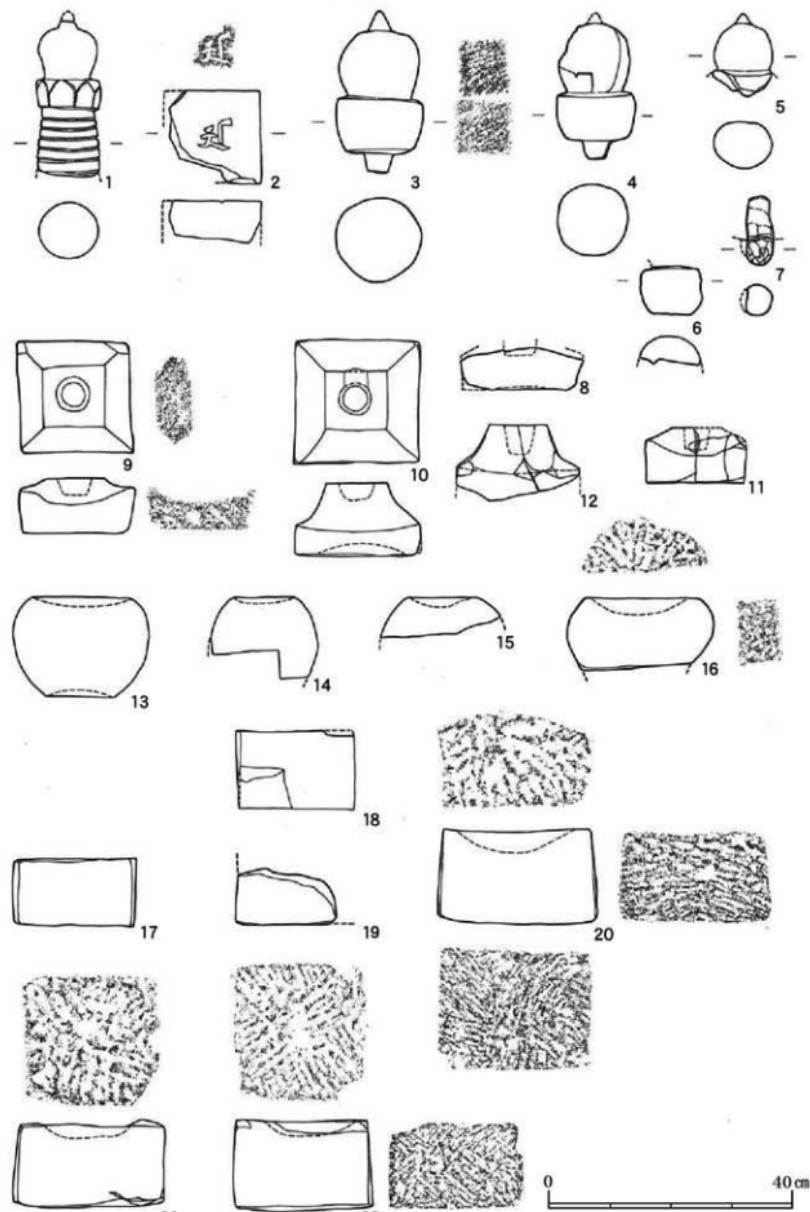


鉄器実測図

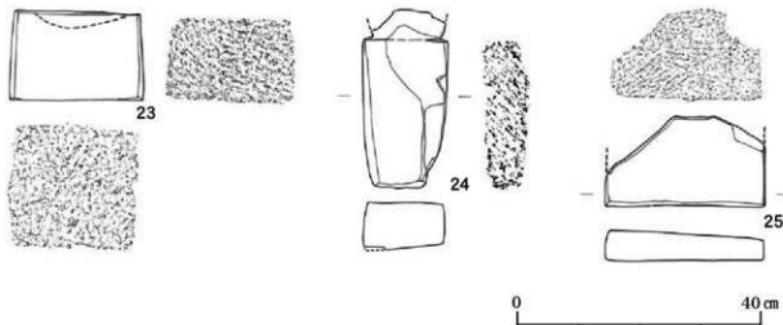


0 20 cm

土器実測図



石造物実測図



石造物実測図

○まとめ

今回の調査では、中世墓が平坦面に構築されていることが明らかとなった。14基以上確認された。石材を配置する区画墓で、同族墓と思われる。少なくとも南半は同一区画内に蔵骨器を埋納していることから家族墓的な様相が強いと思われる。今回調査した墓はすべて火葬骨を埋納した墓で、土葬は認められなかった。容器は備前焼・丹波焼と東播磨系須恵器と土師器の4種が使われている。さらに火葬骨直葬の墓も存在する。鉄釘が出土していることから木棺も存在することになるが、鉄釘は被熱していることから火葬場のものかもしれない。現時点では土葬はなかったと判断したい。

遺跡対面には金剛城寺が鎮座し、谷奥にはその前身の作門寺や七種寺が存在していた。田口トツタニ遺跡に埋葬された時期は作門寺が興隆していた時期で、七種山麓を中心に現金剛城寺の位置にも塔頭などが展開していた。山麓部は巡礼道でもあり、山塊にも小社や祠が見られる信仰の場であった。中世墓を構築するには最適の立地と思われる。

土器観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土師器	鍋	SK01	20.8	15.1		ヨコナデ	タタキ、指圧痕あり	
2	備前焼	壺	SK03	11.6	18.7	13.3	ヘラケズリ	指圧痕あり	
3	土師器	小皿	SK04	(8.4)	1.6	(4.2)	ナデ		
4	土師器	鍋	SK06	(19.6)	残2.7		ヨコナデ		
5	須恵器	壺	SK07	8.8	21.5	8.0	ロクロナデ・ヘラ描き		底部糸切り
6	備前焼	壺	SK09	(13.0)	残4.0		ロクロナデ		
7	丹波焼	壺	SK09		残18.5	(14.0)	ロクロナデ		
8	備前焼	壺	SK09	10.4	18.9	12.1	ヘラケズリ		穿孔あり
9	備前焼	片口小壺	SK09	5.0	8.1	5.4	ヘラケズリ・ロクロナデ		
10	備前焼	壺	表探	11.8	24.5	14.0	ヘラケズリ・ロクロナデ		穿孔あり(廻し)
11	丹波焼	壺	表探		残25.3	15.6	ナデ		

鉄製品観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	鉄器	鉄釘	SK01北側		(4.3)				
2	鉄器	鉄釘	SK01北側		(4.1)				
3	鉄器	鉄釘	SK01北側		(5.2)				

石造物観察表

報告	五輪塔部分	石材	遺構	法量(cm)			備考	
				高さ	幅	奥行		
1	宝蓋印塔相輪	凝灰岩	SK08	(25.2)	10.5	10.7		
2	宝蓋印塔塔身	凝灰岩		(6.8)	(15.1)	15.2	薬師三尊 日光菩薩アと思われる	
3	風空輪	凝灰岩	SK14	26.4(柄含む) 23.5(柄除く)	14.0(風輪) 13.0(空輪)	13.5(風輪) 12.0(空輪)		
4	風空輪	凝灰岩	SK13	(22.3)	12.9	11.5		
5	風空輪	凝灰岩		(13.4)	9.5	7.5	一石五輪塔	
6	風空輪	凝灰岩		(8.0)	(10.0)	(4.5)		
7	風空輪	凝灰岩	SK08	(11.3)	(4.5)	(5.5)		
8	火輪	凝灰岩		(7.0)	(20.0)			
9	火輪	凝灰岩	SK12	9.0	18.6	18.2		
10	火輪	凝灰岩	SK13	11.8	20.5	20.2	3面残存	
11	火輪	凝灰岩	SK08	9.0	16.8	16.8		
12	火輪	凝灰岩	SK09	(12.4)	20.2	(10.5)	上面被熱	
13	水輪	凝灰岩	SK08	16.2	22.2	22.2	全体にノミ痕残る	
14	水輪	凝灰岩		(13.3)	(17.6)		左右下面上面残存	
15	水輪	凝灰岩	SK11	(6.8)	(19.8)	(18.2)	全体に整形痕あり	
16	水輪	凝灰岩	SK14					
17	地輪	凝灰岩	SK01	11.0	20.0	20.5		
18	地輪	凝灰岩	SK13	12.6	19.4	19.2		
19	地輪	凝灰岩	SK15	(9.2)	(16.4)	(15.2)		
20	地輪	凝灰岩		15.4	26.0	(20.2)		
21	地輪	凝灰岩		14.2	25.0	23.2	上面整形痕そのままの残る	底面被熱
22	地輪	凝灰岩		15.4	22.6	22.8		
23	地輪	凝灰岩		14.5	21.8	22.0	全体にノミ痕あり	一部夾雜物含む
24	-五輪塔基部	凝灰岩		(29.0)	13.8	7.9	埋立式	
25	台座 基礎	凝灰岩		(5.0)	26.2	(14.4)		



遺跡遠景（西　金剛城寺から）



遺跡遠景（西から）



調査前（北から）



調査前（南から）



人力掘削



調査風景（1号墓）



中世墓群（南から）



中世墓群（南西から）



中世墓群北半（北から）



中世墓群北半（南から）



1号墓（西から）



1号墓地輪除去（西から）



1号墓蓋除去（西から）



1号墓蔵骨器（鍋）出土状態



2号墓（西から）



2号墓完掘（西から）



3号墓（西から）



4号墓（西から）



5号墓（西から）



6号墓（西から）



中世墓群南半（北西から）



中世墓群南半（西から）



7号墓（西から）



7号墓蓋除去（西から）



7号墓調査風景



7号墓藏骨器出土状態



8号墓（北西から）



8号墓相輪出土状態



9号・10号・11号墓（西から）



9号・10号・11号墓（南から）



9号・11号墓（西から）



9号墓（北から）



9号墓北東土器出土状態（北から）



9号墓南東土器出土状態（南から）



9号墓蓋除去（西から）



9号墓土器出土状態（西から）



10号墓上部除去（西から）



調査風景



12号墓火輪出土状態（西から）



調査風景



埋戻し風景



埋戻し後（北から）



1 レンチ人力掘削



1 レンチ（南から）



2 レンチ調査前（北から）



2 レンチ（北から）



2 レンチ北壁



2 レンチ埋戻し



1



2



5



7



8



9



10



11



3



4



6



M 1



M 2



M 3





S1



S3



S4



S2



S5



S6



S7



S8



S9



S10



S11



S12



S14



S16



S17



S19



S18

S20

S21



S22



S23



S25



S24



27. 南田原条里遺跡（第37次）

所在地 福崎町南田原字ナコザ 3056番1他
事業名 店舗新築工事
事業者名 株式会社マルアイ 代表取締役 井元進
調査担当 橋口 碧
調査面積 7.6 m²
調査期間 平成30年3月13日（水）、14日（木）

○調査に至る経過

平成30年3月5日（月）に、工事主体者から、周知の埋蔵文化財包蔵地内における店舗新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年3月13日（水）、14日（木）に確認調査を行った。



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を19か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置づけられる。

南田原条里遺跡では今まで36回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器・石包丁等が出土している。第22次、23次調査では、奈良時代の集落跡の存在を示唆する溝状遺構や柱穴等が見つかっており、今回の調査地点はその北側にあたる。

○調査の概要

坪1

耕土、床土、褐色シルト細砂、にぶい黄褐色砂層、灰オーリーブ砂層から成っている。遺構・遺物とともに確認されなかった。

坪2

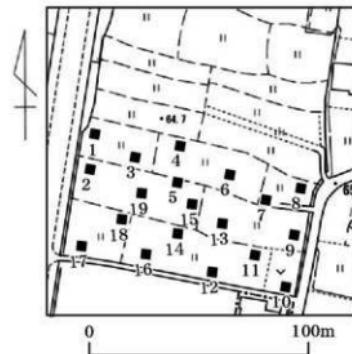
耕土、床土、黄褐色シルト質細砂、暗褐色シルト質細砂、暗褐色砂層から成っている。黄褐色土から須恵器片が出土したが、顕著な遺構は確認されなかった。

坪3

耕土、床土、黄褐色砂層から成っている。遺構・遺物とともに確認されなかった。

坪4

耕土、床土、暗灰黃シルト質細砂、暗褐色シルト質粗砂、褐色砂層から成っている。遺構・遺物とともに確認されなかった。



坪配置図

坪 5

耕土、床土、暗褐シルト質粗砂、にぶい黄褐シルト質中砂から成っている。遺構・遺物は確認されなかった。

坪 6

耕土、暗灰黄シルト質粗砂、黄褐シルト質細砂、暗オリーブ褐シルト質細砂から成っている。土坑1基を検出し、埋土上面から須恵器片が出土した。

坪 7

耕土、床土、灰黄褐シルト質粗砂、黄褐シルト質粗砂、にぶい黄褐シルト質粗砂、黄褐シルト、暗褐シルト、にぶい黄褐シルト質細砂、暗灰黄シルト質細砂から成っている。第3層から須恵器片が出土した。第6層には炭が含まれていたが、顯著な遺構は検出できなかった。

坪 8

耕土、床土、黄褐シルト質細砂から成っている。表土直下に暗灰黄色土の掘り込みが確認できた。近現代の土器片が出土した。

坪 9

耕土直下にオリーブ褐シルト質細礫、灰シルト質細礫の掘り込みがそれであるが、近現代の攪乱だと考えられる。遺物は確認されなかった。

坪 10

耕土、床土、暗灰黄シルト質細砂から成っている。遺構・遺物は確認されなかった。

坪 11

耕土、床土、暗灰黄シルト質細砂、オリーブ褐シルト質細砂、黒褐シルト質細砂、灰黃褐シルト質細砂、灰オリーブシルト質細砂から成っている。第3層から須恵器片が検出されたが、顯著な遺構は確認されなかった。

坪 12

耕土、オリーブ褐シルト質細砂、暗灰黄シルト質細砂、褐シルト質粗砂、オリーブ褐シルト質粗砂から成っている。第5層からピットを1基検出した。埋土から須恵器片が出土した。

坪 13

耕土、床土、黄褐シルト質粗砂、オリーブ褐シルトから成っている。第4層から須恵器が出土したが、顯著な遺構は確認されなかった。

坪 14

耕土、黄褐シルト質極細砂、暗オリーブ褐シルト質中砂から成っている。第3層直上で土師器片とピット3基を検出した。

坪 15

耕土、床土、オリーブ褐シルト質粗砂、にぶい黄褐砂層から成っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪 16

耕土、オリーブ褐シルト、黄褐シルト、オリーブ褐砂層から成っている。第2層から須恵器片が出土したが、顯著な遺構は確認されなかった。

坪 17

耕土、床土、暗褐シルト質粗砂、にぶい黄褐砂層から成っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪 18

耕土、にぶい黄褐シルト質中砂、にぶい黄褐シルト質粗砂から成っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

坪 19

耕土、黄褐シルト質粗砂から成っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回調査した地点は氾濫原に位置し、耕土（床土）の下は洪水堆積層であった。なお、数か所において耕土（床土）下に遺物包含層が認められる。

今回の調査では、建設予定建物のうち東側の建物の南北（坪6、12）から遺構が検出された。

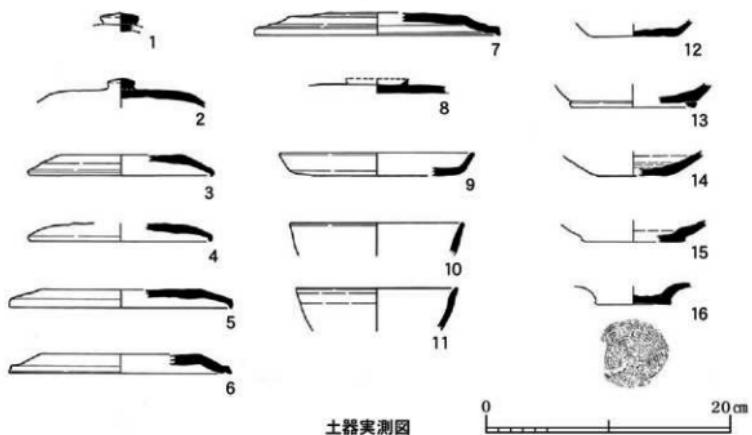
また、坪7、11、13からは遺構は確認されていないものの、遺物包含層が認められた。坪8、9、10の調査から近現代の溝が南北に走っていることが分かり、建設予定建物の範囲のうち、東側の一部は攪乱を受けているが、おおよその範囲に遺構面が広がっていると考えられる。

西側の建物の範囲のうち、部分的に坪2において包含層が認められるが、検出した土器が少量であることから、遺構密度がきわめて希薄、あるいは2次の移動のものと考えられ、調査は不要と考える。

駐車場予定地の南側からは遺構・遺物とともに確認されなかつたが、坪14からピットと思われる遺構が検出されたことには注意したい。

当遺跡のすぐ南側で実施した第22次、23次調査で奈良・平安時代の遺構が確認されていることから、今回の調査でも同様の時期の遺構が検出されることが期待された。その結果、奈良・平安時代の須恵器片を含む包含層および遺構を検出し、調査範囲中の微高地に遺構の存在があるとうことが分かった。

この微高地は北へ続くと考えられ、今後の開発についても注意が必要である。

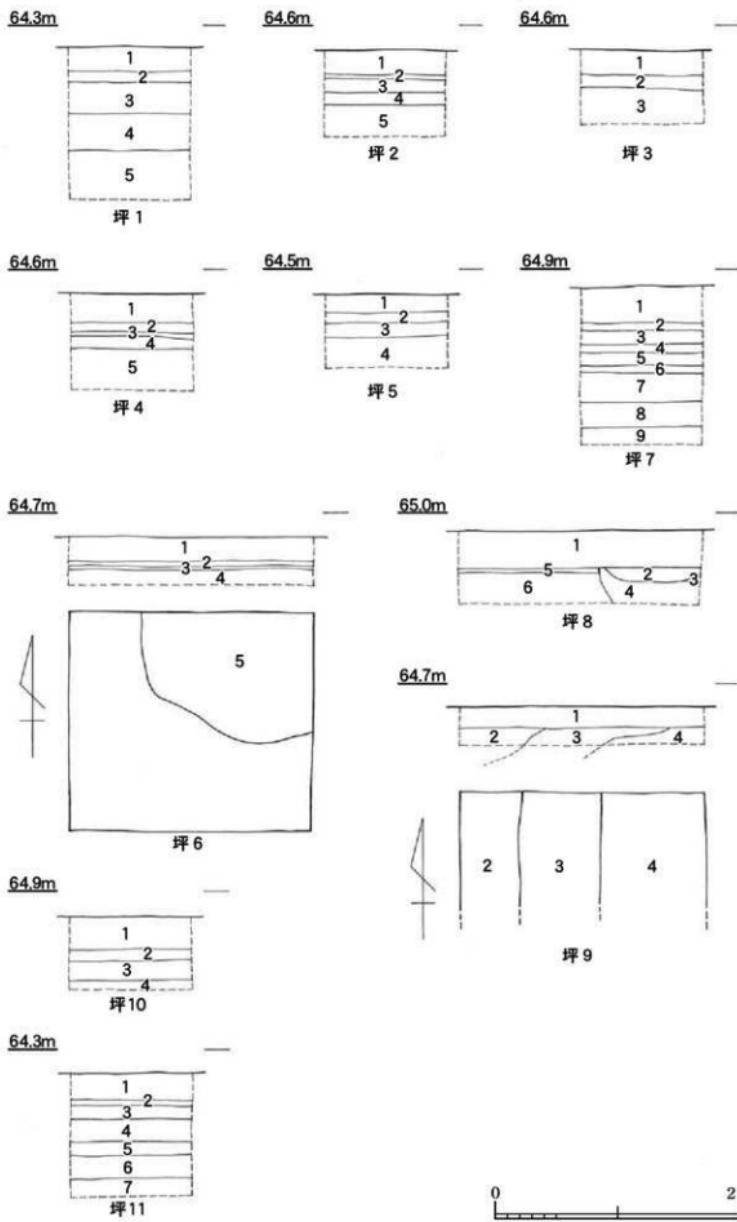


土器実測図

0 20cm

土器観察表

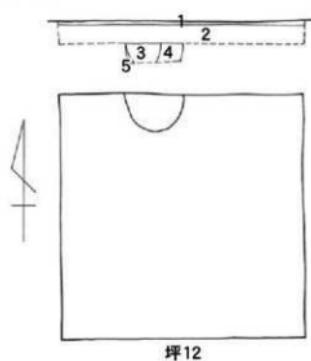
番号	種別	器種	坪No.	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	杯蓋	13Tr		(1.5)			仕上げナデ	3層
2	須恵器	杯蓋	13Tr	(13.6)	(2.3)		ハラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	5層面上
3	須恵器	杯蓋	6Tr	(15.0)	(1.7)		ロクロナデ	仕上げナデ	床土下の層
4	須恵器	杯蓋	13Tr	(15.0)	(1.4)		ハラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	包含層
5	須恵器	杯蓋	13Tr	(18.0)	(1.5)		ハラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	5層面上
6	須恵器	杯蓋	11Tr	(18.0)	(1.6)		ロクロナデ	ロクロナデ	3層
7	須恵器	稜楕蓋	14Tr	(20.0)	(1.8)		ハラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	
8	須恵器	稜楕蓋	1Tr		(0.9)		ロクロナデ	ロクロナデ	床土下の層
9	須恵器	皿	12Tr	(16.0)	1.8	(10.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	包含層
10	須恵器	杯	13Tr	(14.0)	(12.6)		ロクロナデ	ロクロナデ	5層面上
11	須恵器	楕	14Tr	(13.0)	(3.4)		ロクロナデ	ロクロナデ	
12	須恵器	杯	6Tr			(6.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	床土下の層
13	須恵器	杯	6Tr	(12.6)	(1.9)		ロクロナデ	ロクロナデ	床土下の層
14	須恵器	楕	7Tr		(2.0)	(5.6)	ロクロナデ		3層
15	須恵器	楕	13Tr		(1.2)	(8.4)		仕上げナデ	3層
16	須恵器	楕	12Tr		(1.7)	(6.2)	ハラケズリ、ロクロナデ		包含層



土層図



64.3m

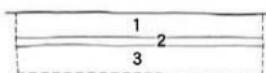


64.5m

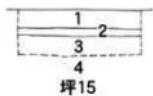


坪13

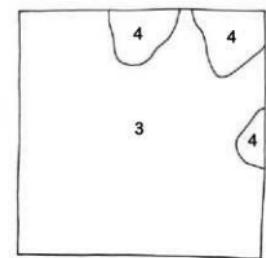
64.4m



64.3m

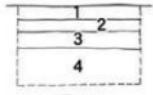


坪15

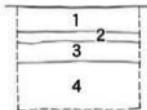


坪14

64.5m

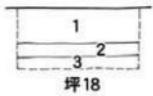


坪16



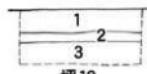
坪17

64.2m



坪18

64.4m



坪19



土層図

- 坪 1**
- 1 黄灰(2.5Y4/1)粗砂(耕土)
 - 2 黄褐(2.5Y5/6)中砂(床土)
 - 3 褐(10YR4/4)シルト質細砂
 - 4 にぶい黄褐(10YR5/4) 砂層 細砂
 - 5 灰オリーブ褐(5Y5/2) 砂層 中砂
- 坪 2**
- 1 耕土
 - 2 床土
 - 3 黄褐(2.5Y5/4)シルト質細砂(包含層)
 - 4 灰褐(10YR5/4)シルト質細砂
 - 5 増褐(10YR3/3) 砂層
- 坪 3**
- 1 耕土
 - 2 オリーブ褐(2.5Y5/6)シルト質粗砂
 - 3 黄褐(2.5Y5/3) 砂層 粗砂
- 坪 4**
- 1 耕土
 - 2 床土
 - 3 増灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂
 - 4 増褐(10YR3/3) シルト質粗砂 20cm以下円穫含む
 - 5 褐(10YR4/4) 砂層 粗砂
- 坪 5**
- 1 耕土
 - 2 床土
 - 3 増褐(10YR3/3) シルト質粗砂
 - 4 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質中砂
- 坪 6**
- 1 灰黄褐(10YR4/2)シルト質粗砂(耕土)
 - 2 増灰黄(2.5Y4/2)シルト 質粗砂
 - 3 黄褐(2.5Y5/4)シルト質細砂 マンガンたまる
 - 4 増オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト 3の土混ざる(包含層)
 - 5 増褐(10YR3/3) シルト質細砂 黄褐(10YR5/6)粒含む
- 坪 7**
- 1 黑褐(10YR3/2)シルト質粗砂(耕土)
 - 2 褐(10YR4/4)シルト 粗砂多く含む(床土)
 - 3 黄灰褐(10YR4/2)シルト 質粗砂(包含層)
 - 4 黄褐(2.5Y5/3)シルト質粗砂
 - 5 にぶい黄褐(10YR4/4)シルト質粗砂 マンガン含む
 - 6 黄褐(10YR5/8)シルト 質含む
 - 7 増褐(10YR3/3) シルト 6の土の粒まだらに含む
 - 8 にぶい黄褐(10YR5/3)シルト 質細砂
 - 9 増灰黄(2.5Y5/2)シルト質細砂
- 坪 8**
- 1 増オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質粗砂 細縞(耕土)
 - 2 増灰黄(2.5Y4/2)シルト 現代の土器含む 細縞(埋土)
 - 3 増灰黄(2.5Y5/6) 砂層 細縞
 - 4 黄褐(2.5Y5/6)シルト質細砂 増灰黄(2.5Y5/2)混ざる
 - 5 黄褐(2.5Y5/6)シルト質細縞(床土)
 - 6 黄褐(2.5Y5/3) 砂層 粗砂
- 坪 9**
- 1 増オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト 中砂
 - 2 オリーブ褐(2.5Y4/6)シルト 細縞多く含む
 - 3 灰(5Y4/2) シルト 2の土含む 細縞含む
 - 4 灰(7.5Y4/1)シルト 細砂
- 坪10**
- 1 増オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質粗砂 細縞(耕土)
 - 2 1の土と黄褐(2.5Y5/6)土混ざる 細縞
 - 3 増灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂 植(7.5YR6/6)シルト質細砂 ブロック少し含む
 - 4 増灰黄(2.5Y4/2)シルト 2cm大角縞多く含む(洪水堆積層)
- 坪11**
- 1 黑褐(2.5Y3/2)シルト質粗砂 (耕土)
 - 2 オリーブ褐(2.5Y4/6)シルト質粗砂(床土)
 - 3 増灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂(包含層)
 - 4 オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質細砂 黄褐(10YR5/8)の粒含む
 - 5 黑褐(10YR3/2)シルト質粗砂 黄褐(10YR5/8)の粒含む
 - 6 増黄褐(10YR4/2)シルト質細縞 黄褐(10YR5/8)の粒含む
 - 7 灰オリーブ(5Y5/2)シルト質細縞



機械掘削



調査区全景（西から）



坪2壁面（南から）



坪6壁面・遺構面（南から）



坪8壁面（南から）



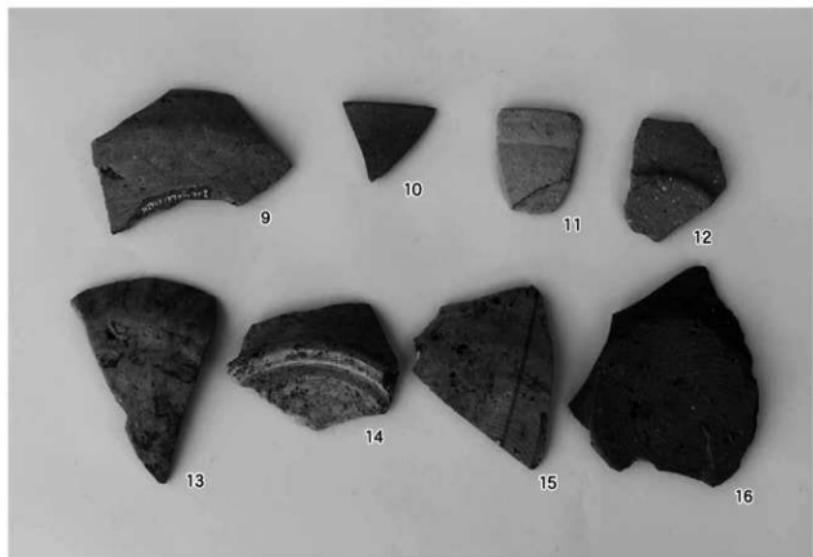
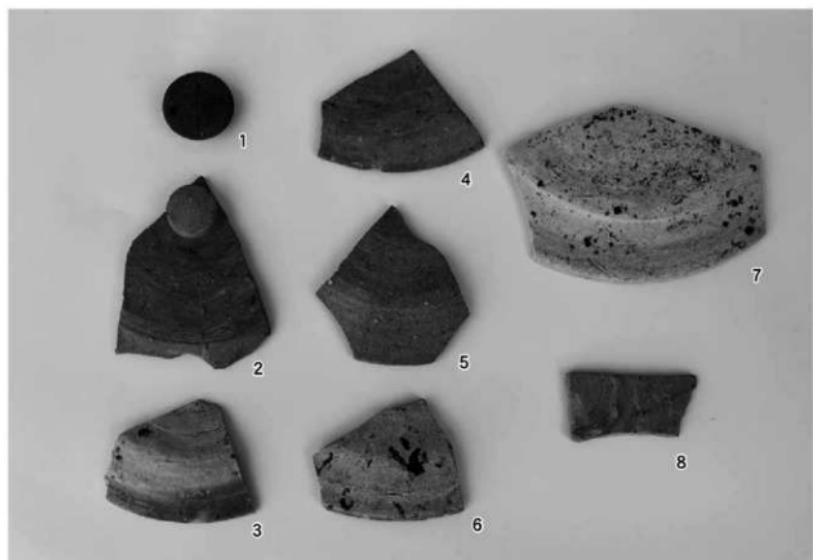
坪9壁面・遺構面（南から）



坪10壁面（南から）



埋戻し後



報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	平成29年度発掘調査報告
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	17
編著者名	樋口 碧・渡辺 異
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2020年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積 m ²	要因
		市町村	遺跡番号					
おののさんぶち 北野散歩地 (第4次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町西田原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あおにしつのわ	28443	410113	34度 57分 21秒	134度 46分 6秒	2017年 4月12日	12	確認
ほせうりょうし、しきつ 實性院試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町 兵庫県神崎郡福崎町 ほみかわわ	28443		34度 56分 42秒	134度 46分 0秒	2017年 5月15日	8	試掘
にしたわらあねねむかしきつ 西田原字大塚試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町西田原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あおにしつのわ	28443		34度 56分 59秒	134度 45分 41秒	2017年 6月12日	16	試掘
ひよきまほくからせいかく 福崎駅周辺整備 しべい 試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町福田 兵庫県神崎郡福崎町福田	28443		34度 57分 38秒	134度 45分 3秒	2017年 6月19日	16	試掘
かみだいじょうじ いせき 上大明寺道跡 (第3次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町西田原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あおにしつのわ 字上大明寺282番地2 283番地3	28443	410050	34度 57分 33秒	134度 45分 49秒	2017年 6月20日	6	確認
にしたわらあぎたかしきつ 西田原字北角試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町西田原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あおにしつのわ 字北角218番字北角田 1152番地	28443		34度 57分 33秒	134度 45分 50秒	2017年 7月12日	32	試掘
にしたわらあぎまだ しきつ 西田原字前田試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町西田原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あおにしつのわ 字前田1694番2他	28443		34度 57分 40秒	134度 45分 21秒	2017年 7月18日	12	試掘
みのみたわらじょうり いせき 南田原条里道跡 (第35次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字歲ノ木2337番	28443	410046	34度 56分 40秒	134度 45分 14秒	2017年 9月13日	4	確認
みのみたわらじょうり いせき 南田原条里道跡 (第36次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字坂之下2181番1	28443	410146	34度 56分 33秒	134度 45分 33秒	2017年 9月26日	12	確認
みのみたわらじょうり いせき 南田原桶川道跡 (第6次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字桶川3135番1号の一部	28443	410131	34度 57分 3秒	134度 45分 29秒	2017年 9月29日	8	確認
みのみたわらじょうり いせき 南田原桶川道跡 (第7次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字桶川3150-4, 3149-2	28443	410131	34度 57分 3秒	134度 45分 28秒	2017年 10月4日	4	確認
みのみたわらじょうり いせき 南田原桶川道跡 (第8次)	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字桶川3136番6	28443	410131	34度 56分 59秒	134度 45分 30秒	2017年 10月13日	4	確認
みのみたわらじょうり いせき 南田原字五合堂 しきつ 試掘	ひょうごけんじんざきくふくさき町南田原 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あおにしつのわ 字五合堂791番1	28443		34度 56分 30秒	134度 45分 33秒	2017年 10月24日	4	試掘

ふりがな 所取遺跡名	所在 地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	面積 m ²	要因
		市町村	遺跡番号					
にしあわらまえだいせき 西田原前田遺跡 (第1次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうにしあわら 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あざえんだいせき 字前田1710番、1711番	28443	410092	34度 56分 28秒	134度 45分 54秒	2017年 10月30日	16	確認
しみずいせき 清水遺跡 (第1次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみずいせき 兵庫県神崎郡福崎町山崎 はいせいざき 623番、624番	28443	410052	34度 57分 53秒	134度 45分 14秒	2017年 10月31日	4	確認
たかおかふくだちく 高岡・福田地区 (うこう・ふくだく) ほ場整備(南工区)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうたかおか 兵庫県神崎郡福崎町高岡	28443		34度 分 秒	134度 分 秒	2017年 10月10日 ~11月16日	144	試掘・確認
かじやいせき 鍛冶屋遺跡 (第2次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうかじや 兵庫県神崎郡福崎町八千種 あかねのしや いせき 字南ノ下3827番の一部	28443	410061	34度 55分 33秒	134度 46分 44秒	2017年 11月27日	4	確認
にじむらわいせき 西田原上野田遺跡 (第3次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうにじむら 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あじむらわいせき 字上野田1828番地	28443	410091	34度 57分 9秒	134度 46分 03秒	2017年 12月11日	20	確認
みかたからざせきのひし 南田原字山ノ東 しつく 試掘	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみかたから 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あからざせきのひし 字山ノ東	28443		34度 56分 29秒	134度 46分 03秒	2017年 12月19日	20	試掘
たかおかふくだちく 高岡・福田地区 (うこう・ふくだく) ほ場整備(北工区)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうたかおか 兵庫県神崎郡福崎町福田	28443				2017年 9月25日 ~12月25日	404	試掘・確認
しみずいせき 清水遺跡 (第2次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみずいせき 97-1	28443	410052	34度 57分 49秒	134度 45分 13秒	2018年 1月10日	8	確認
みなみわらあざいこうじ 南田原字西光寺 しつく 試掘	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみなみわら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あざいこうじ 字西光寺1382-3他	28443		34度 56分 38秒	134度 46分 1秒	2018年 1月17日	12	試掘
みなみわらあづけがいせき 南田原桶川遺跡 (第9次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみなみわら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あづけがいせき 3147-1	28443	410131	34度 57分 1秒	134度 45分 28秒	2018年 2月5日	8	確認
ふくさきえきゆくわんせいひ 福崎駅周辺整備 しつく 試掘	ひょうごけんかんざくしらくさきょうふくさきえきゆくわんせいひ 兵庫県神崎郡福崎町福田 ちくせいひ	28443		34度 57分 38秒	134度 45分 3秒	2018年 12月12日 2019年 2月5日	12	試掘
やちくさひのしがいれ 八千種字東塙内 しつく 試掘	ひょうごけんかんざくしらくさきょうやちく 兵庫県神崎郡福崎町八千種 あぢくしがいれ 字東塙内650番6	28443		34度 55分 54秒	134度 47分 5秒	2018年 2月7日	8	試掘
かじやいせき 鍛冶屋遺跡 (第3次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうかじや 兵庫県神崎郡福崎町八千種 あじやいせき 字代ノ岡3618番5	28443	410061	34度 55分 37秒	134度 46分 42秒	2018年 2月7日	4	確認
たのくわいせき 田口トツタニ遺跡 (第1次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうたのくわい 兵庫県神崎郡福崎町田口 あいせき 字トツタニ683-19	28443		34度 58分 59秒	134度 43分 46秒	2018年 1月24日 ~30日	24	確認
みなみわらあじうりいせき 南田原条里遺跡 しつく (第37次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうみなみわら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あじうりいせき 字ナコザ3056番1他	28443	410046	34度 56分 52秒	134度 45分 30秒	2018年 3月13日 14日	76	確認
まえぜいたいせき 前田遺跡 (第1次)	ひょうごけんかんざくしらくさきょうまえぜいたい 兵庫県神崎郡福崎町高岡 あざえいたい 字前田814-1他	28443	410068	34度 57分 44秒	134度 44分 9秒	2018年 2月19日 ~3月27日	780	本発掘

2020年3月31日 印刷
2020年3月31日 発行

埋蔵文化財調査報告書
平成29年度発掘調査報告
福崎町埋蔵文化財調査報告17

編集・発行 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1
福崎町教育委員会

印刷 クリヤ印刷所